

人と地球の架け橋に

竹中土木コーポレートレポート

Corporate Report 2023



土木専門ゼネコンとしてサステナブル社会の実現に向けて
環境と共生する強靱な社会基盤の構築に取り組む
当社の事業活動をステークホルダーの皆様にお伝えします。

■編集方針

「竹中土木コーポレートレポート2023」は
会社案内(事業概要紹介)とサステナビリティレポート(CSR活動報告)を統合し
竹中グループが目指す「CSRビジョン」を示すとともに
当社の事業活動全体をステークホルダーの皆様にわかりやすくお伝えするものです。
誌面の都合で掲載できないコンテンツや事例、データ等については
竹中土木WEBサイトに掲載しています。

contents

竹中土木について	
グループCSRビジョン	4
会長メッセージ	5
社長メッセージ	6
会社概要	10
竹中土木のあゆみ	12
特集	
未来へつなぐ「働き方改革」	14
事業活動	
国土を支える「地盤改良」	16
社会をつなぐ「交通インフラ」	18
社会を支える「トンネル&地下インフラ」	20
暮らしを守る「治水・利水」	22
クリーンエネルギー&土地活用	24
インフラの長寿命化	26
海外プロジェクト	28
新しい時代を拓く「技術開発」	30
ニーズに応える「設計&技術提案」	32
事業活動を支える「管理部門」	33
CSR活動/ステークホルダーとともに	
CSRの推進	34
地球環境を守る	36
地域社会に貢献	38
お客様のために	40
従業員とともに	42
マネジメント	44
ステークホルダーとの対話	46
グループ会社/竹中道路の活動	47

対 象 期 間	2022年1月～2022年12月(当該年以外の活動も一部掲載しています)
対 象 範 囲	当社の活動をまとめていますが、一部(株)竹中工務店との共同活動及び、(株)竹中道路の活動も含まれています。
参考ガイドライン	環境省の「環境報告ガイドライン 2018年版」を参考にしました。
公 開	2023年4月(次回公開予定:2024年4月)
お問い合わせ先	経営戦略室 TEL. 03-6810-6493 FAX. 03-6660-6301 ホームページ https://www.takenaka-doboku.co.jp/



社会情勢の変遷に伴い、建設業に求められる機能や価値も大きく変化し、これまで以上に「社会と価値観を共有する企業活動」が求められています。社会全体を見ても「地球規模の気候変動」「社会インフラの老朽化」「安全・安心の確保」「少子高齢化」など多くの課題を抱えており、企業が担う社会的責任は重要性を増しています。

私たちは、社会の課題を解決してサステナブル社会の実現を示した『竹中グループCSRビジョン』のもと、原点である『企業理念』を一人ひとりが胸に刻んで『品質経営』を推進するとともに、CSRの行動指針である『企業行動規範』を実践することで持続的に発展をつづけ、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

企業理念	経営理念	最良の作品を世に遺し、社会に貢献する		
	社 是	正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし 勤勉業に従い職責を全うすべし 研鑽進歩を計り斯道に貢献すべし 上下和親し共存共栄を期すべし		
品質経営	竹中グループ 品質経営基本方針	品質重視の経営に徹し 新しい環境創造への挑戦によりお客様満足と社会の信用を得る		
ビジョン	竹中グループ CSRビジョン	私たち竹中グループは、ステークホルダーとの対話を深め、その想いを「まちづくり」を通してかたちにし、未来のサステナブル社会へつないでいきます。		
方針	安全衛生方針	品質方針	環境方針	人権方針
	調達方針	税務方針	内部統制基本方針	個人情報保護方針
行動指針	企業行動規範	1. お客様満足とまちづくりを通じた持続可能な社会の実現 2. 法令及び社会規範の遵守 3. 情報の開示及び保護 4. 人権の尊重 5. 働きやすい職場環境の実現 6. 地球環境への貢献 7. 社会への貢献 8. 危機管理の徹底 9. 国際規範の尊重と各国・地域への貢献 10. 実施体制の整備と違反への対応		
メッセージ	竹中グループメッセージ	想いをかたちに 未来へつなぐ		
	竹中土木コーポレートメッセージ	人と地球の架け橋に		



1941年の創立以来、想いを込めて大地と向き合い、土木一筋に「ものづくり」の道を堅実に歩み続けた結果、広くお客様から信頼を頂いておりますこと、心より感謝申し上げます。

当社は、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、豊かで安全な国民生活に寄与するとともに、コーポレートメッセージ「人と地球の架け橋に」に込めた想いを全従業員が共有し、サステナブル社会の実現に向けた取り組みを加速させ、竹中グループの一翼を担う企業としての社会的責任を着実に遂行してまいります。

2023年1月
取締役会長

竹中康一

2023年1月
取締役社長

竹中 祥悟

当社は創立から81年の業歴を重ね、400年以上の歴史を持つ竹中グループの事業の主要な柱の一つである「土木分野」を一貫して担ってきました。

「土木」は社会・経済活動の基盤をつくとともに、人々の豊かで健やかな暮らしを支える役割を担ってきましたが、自然災害の激甚化や大規模地震の発生が危惧される昨今、当社は、防災・減災やインフラリニューアル分野の技術を探求・深耕し、「国民生活の安全・安心の確保」に全力で取り組んでいます。

また、「まちづくり総合エンジニアリング企業」を目指す竹中グループの一員として、環境と共生する強い社会基盤構築の役割を担うとともに、インフラ一体型都市開発や海外での事業展開などで「グループ連携」を深化させ、事業領域の拡大を目指しています。

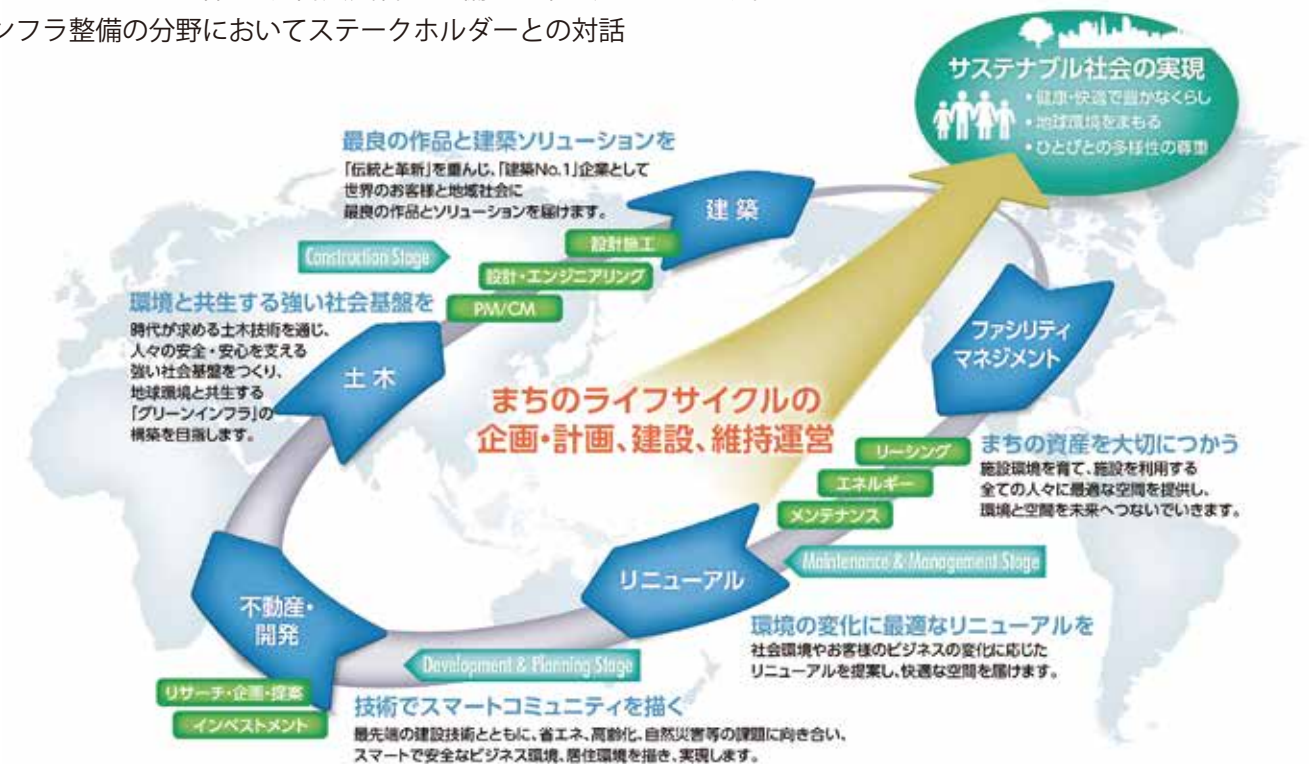
そして、事業活動のあらゆる場面で「SDGs」の実現や「脱炭素社会」に向けた取り組みなどが重要性を増していくなかで、私たちは、果たすべき社会的責任を着実に遂行しながら、サステナブル社会の実現に挑みつづけます。

グループでグローバルにまちづくりにかかわる

竹中グループは、グループ全体の事業領域を「まち」ととらえ、まちのライフサイクル全体に関わる価値を提供しています。

そうしたなかで当社は、自然災害への備えや社会インフラ整備の分野においてステークホルダーとの対話

を深めながら技術の研鑽を重ね、環境と共生する強い社会基盤＝「グリーンインフラ」の構築を実現して未来のサステナブル社会へ繋げていきたいと考えています。



将来を見据えた「2025年ビジョン」を実現して「輝く企業」へ

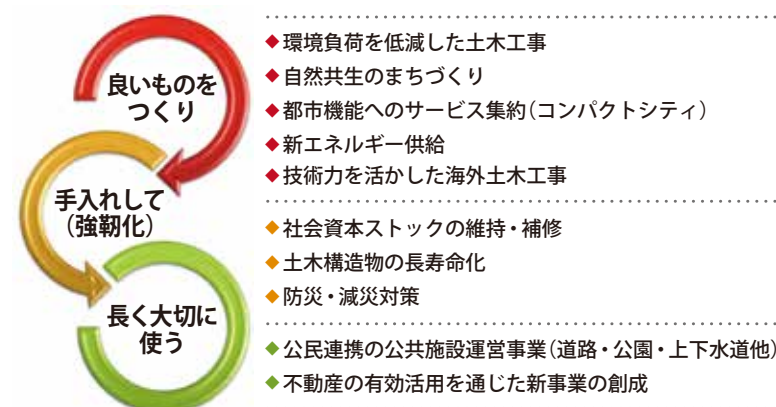
2016年の創立75周年を機に、長期経営方針として「2025年ビジョン」を策定し、全社員が「将来のあるべき姿」を見据えてベクトルを合わせ、事業領域の拡大や経営目標値の達成に向けて着実に歩みを進めています。

私たちは、竹中グループにおける土木分野をしっかりと担い、従来の「壊して・つくる」フロー消費型社会

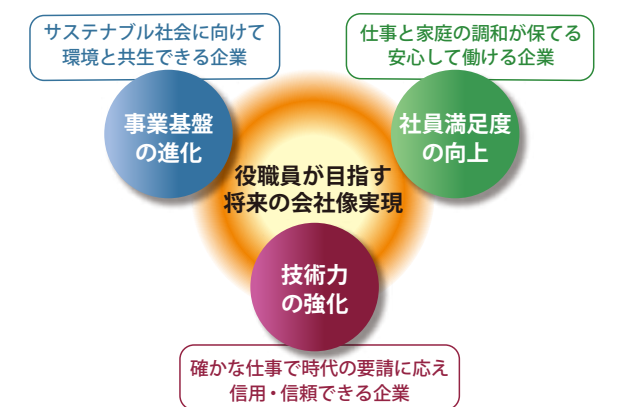
から「良いものをつくり」、「手入れして」、「長く大切に使う」ストック型社会の実現に寄与していきたいと考えています。

そして、「2025年ビジョン」の戦略の下で「事業基盤の進化」、「技術力の強化」、「社員満足度の向上」を実践しながら役職員一体となって目指す「将来の会社像実現」に向けて堅実にステップアップしていきます。

◆ 私たちの目指すグリーンインフラ



◆ ビジョン達成に向けて



カーボンニュートラルな社会を目指して

2020年に政府が行なった「2050年カーボンニュートラル」の宣言を受けて、様々な企業・団体で「脱炭素社会」に向けた取り組みが推進されています。

また、2022年11月に開催された国連の気候変動対策会議「COP27」では、CO₂排出量の削減に向けた先進国による基金の設立等の新たな対策も決定されました。

◆竹中グループの取り組み

私たち竹中グループは、2022年12月に「竹中グループCO₂削減長期目標」を設定し、2030年の中間目標についてSBT認定取得にコミットしました。

当社においても、オフィスや作業所におけるCO₂削減に向けた取り組みを一層加速させて地球温暖化防止に取り組んでいきます。

そして、「環境と共生する社会基盤の構築に努め、社会の持続的発展に貢献する」との環境方針のもと、2050年までに「CO₂削減100%」を目標に、事業活動のあらゆる場面で脱炭素への取り組みを加速させ、誰もが健康・快適で豊かに暮らせるサステナブル社会の実現に貢献します。

◆事業基盤の進化に向けて再生可能エネルギー事業へ挑戦

太陽光発電施設の豊富な工事実績で培ったノウハウを活かして2016年1月に「四日市グリーンソーラーガーデン」を開設し、再生可能エネルギー事業に参入しました。

四日市市が進める「自然と調和のとれた街づくり」構想



竹中グループCO₂削減長期目標(2022年12月設定)

Scope1+2 (自社の燃料や電力・熱の使用に伴う排出)	2030年までに46.2%削減、2050年までに100%削減
Scope3 (自社の活動に関連する他者の排出)	2030年までに27.5%削減、2050年までに100%削減

(基準年: 2019年)

※ Scope1: 燃料の使用に伴う排出

Scope2: 使用した電力・熱が創出された際の排出

Scope3: 自社の活動に関連する他者の排出 (Scope2以外)

に則って施工を行い、「親水エリア」や「展望広場」に加え、災害時に活躍する「非常用電源設備」などが設けられた地域密着の太陽光発電施設は「年間4.4GWh」を発電し、クリーンエネルギーを社会に供給することでサステナブル社会の実現に貢献しています。



5.5ヘクタールの遊休地を活用して約16,500枚の太陽光パネルが設置された「四日市グリーンソーラーガーデン」

デジタル技術の活用とDXへの取り組みで働き方改革を推進

近年、建設業は、深刻化する技能者・労働者不足や時間外労働の上限規制に適應すべく、省力化や生産性向上に務めています。

このような社会情勢を先取りし、私たちはICTを活用した省人化・省力化のみならず各作業所が創意工夫しながら働き方改革を推進しています。さらに、デジタル技術の活用とデータの蓄積による業務変革に向け



CIMを活用した検討・会議

「魅力溢れる輝く企業」へ

コロナ禍を契機として、事業活動や人々の生活様式が大きく変容するとともに建設業界も大きな変化を迎え、官民挙げて様々な取り組みが進められています。当社においても時代の潮流を敏感に捉え、変えていくべき要素があれば躊躇なく課題の一つひとつ解決しながら発展を続けていきたいと考えています。

一方で決して変えてはならないもの、それは「社員とその家族を大切にする心」です。これは、当社が長きにわたり成長を続けてきた大きな要因の一つであるとともに、受け継がれてきた良き伝統ですので、変わることなく持ち続けたいと思っています。

そして、従業員とともに建設市場の厳しい競争に勝ち抜き、絶え間なく発展を続ける「強い組織」を目指すなかで、人々の豊かな暮らしを実現する「魅力溢れる輝く企業」へと進化を遂げていきたいと思います。



安全衛生「トップパトロール」

て本社組織に「DX推進室」を新設し、業務の効率化はもとより多様化するビジネス環境に迅速に対応できる変化に強い組織を目指しています。

私たちは、「あらゆる変化・ニーズに適應し、独自の魅力できらりと光りつづける企業」をコンセプトに、営業・生産・管理の各業務領域でデジタル技術を活用した業務変革を推進していきたいと考えています。



トンネル作業所: ライブカメラで現場の状況を遠隔監視



QCサークル全国大会の表彰

当社のルーツは、日本の建設技術を海外で飛躍させることを目指し、1937年に竹中工務店と大手ゼネコン数社で構成された「匿名組合共栄会」です。東南アジアや中南米で多くの土木工事を施工しました。1941年にその他ゼネコンが参加し、「海外土木興業株式会社」が設立され、初代取締役会長に当時の竹中工務店社長 竹中藤右衛門が就任しました。その後、竹中工務店が全株式を取得し、1946年に「朝日土木興業株式会社」に改称して竹中グループの土木会社となりました。（1967年に竹中土木株式会社に改称、1973年に株式会社竹中土木に改称）

1941

- 1941年 16
 - 海外土木興業株式会社 設立
- 1946年 21
 - 朝日土木興業株式会社と改称
- 1960年 35
 - 東海道新幹線「有楽町高架」施工



- 1963年 38
 - 小型機械化シールド掘削機完成
- 1965年 40
 - 名古屋市「栄町共同溝工事」をわが国初の「矩形シールド工法」により施工



- 1967年 42
 - 竹中土木株式会社と改称
- 1973年 48
 - 株式会社竹中土木と改称
- 1974年 49
 - モンバサ国際空港（ケニア共和国）施工



1975

- 1975年 50
 - DCM工法（深層混合処理工法）を開発
- 1977年 52
 - 沖縄・安波ダム施工
 - 中部ジャワ道路改良工事施工（インドネシア共和国）
 - 本州四国連絡橋「門崎高架橋」施工
 - 「横浜港大黒埠頭岸壁基礎地盤改良工事」をDCM工法で施工



- 1979年 52
 - DCM専用船「第三竹中号」完成
 - DCM工法が第31回毎日工業技術賞受賞



- 1981年 56
 - わが国初のダムコンクリート圧送工法（PCD工法）を開発
- 1982年 57
 - 「DCM6号船」完成
- 1983年 58
 - シンガポール駐在事務所開設

- 1984年 59
 - 竹中式スラッシュ処理システム（TST）が業界初の環境庁長官賞を受賞
 - ジャカルタ-メラク間高速道路工事施工
 - ジャカルタ市内立体交差工事施工（インドネシア共和国）



1985

- 1985年 60
 - シールド自動測量システム「ADAMS」を開発
- 1986年 61
 - ジャカルタ駐在員事務所開設
- 1987年 62
 - ダム用自動式型枠工法を開発
- 1988年 63
 - 新しい反力方式により推進するECL工法（PRES工法）を開発
 - 中国電力柳井火力発電所 護岸工事施工



- 1991年 63
 - 創立50周年を迎える
 - インドネシア共和国にて現地法人設立

- 1992年 64
 - 耐震固化工法「TOFT工法」を開発
 - 名阪自動車道 名古屋インターチェンジ施工



- 1993年 65
 - 河川浄化TRENDSシステムを開発
 - 「緑化コンクリート」を開発
- 1994年 66
 - ジャカルタ中央駅高架化工事施工（インドネシア共和国）



1995

- 1995年 67
 - 阪神淡路大震災で「TOFT工法」による液状化防止効果を立証



- 1996年 68
 - ケニアナイロビに駐在員事務所を開設
 - タイ チョンブリ立体交差施工



- 北陸新幹線 丸子トンネル施工



- 1997年 69
 - 東京湾横断道路 浮島トンネル施工



- 1998年 70
 - 東名高速横浜青葉インターチェンジ施工



- 1999年 71
 - 高品質再生粗骨材「サイクライト」の製造システムを開発

2000

- 2000年 72
 - 「ニューソイル」が地球環境技術賞を受賞



- 2001年 73
 - 長沢不二男会長が土木学会功績賞を受賞
 - 「TOFT工法」が日本建築学会賞を受賞

- 2002年 74
 - 「TOFT工法」が第4回国土技術開発賞を受賞
 - 長島ダム施工



- 九州新幹線桑原トンネル工事竣工



- 2003年 75
 - みなとみらい線 新高島駅施工



- 2004年 76
 - 地盤改良技術「DCM-L工法」が建築技術性能証明を取得
 - 君津最終処分場が竣工 翌年ウェスティック大賞 環境大臣賞受賞



- 本社及び東京本店が竹中セントラルビル（東陽町）に移転

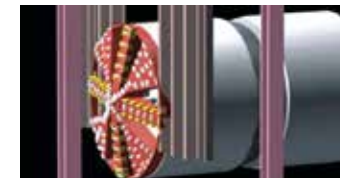
2005

- 2006年 78
 - 東北新幹線八甲田トンネル工事ほかで土木学会技術賞を受賞
 - 「DCM工法」に4軸機を投入

- 2008年 80
 - コーポレートメッセージ制定『人と地球の架け橋に』
 - 忠別ダム工事が土木学会技術賞を受賞



- 2009年 82
 - 内径3500mmの切削シールドにより世界初の本格工事で鋼材切削除去成功



- 2010年 82
 - 関西国際空港施工



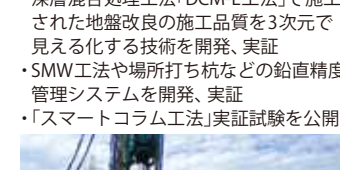
- ルーマニア鉄道近代化工事施工



- 2011年 83
 - インドネシアパトゥーハ地熱発電所施工



- 2012年 84
 - 「スマートコラム工法」を開発
 - 当別ダム施工（国内初の本格的CSGダム）



- 2013年 85
 - 深層混合処理工法「DCM-L工法」で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発、実証
 - SMW工法や場所打ち杭などの鉛直精度管理システムを開発、実証
 - 「スマートコラム工法」実証試験を公開

2015

- 2015年 87
 - 竹中工務店とのJVで「エキスポランド跡地複合施設開発事業」竣工
 - 「四日市グリーンソーラーガーデン」完成 太陽光発電事業に参入



- 「パイプクーリング制御システム」を開発

- 2016年 88
 - 創立75周年「2025年ビジョン」を発表



- マニラに「フィリピン支店」を開設
- トンネル工事における発破音を低減する覆工コンクリート養生型吸音バルーンシステム『ノイズカットバルーン』を開発

- 2017年 89
 - 盛土締固め試験作業の無人化に向けて自動RI試験ロボット」を宇宙航空研究開発機構（JAXA）・竹中工務店と共同開発
 - 土木仮設構造物変状自動計測システム「Tメッシュネット」を大阪大学他と共同開発

- 2018年 90
 - L2地震（液状化）対応 広間隔格子状地盤改良工法を開発
 - 石巻市新門脇地区震災復興業務



- 補強鋼板運搬設置用マニピュレータを開発
- 厚生労働大臣より女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定を取得



- 「トンネル切羽変状可視化システム」を神戸大学他と開発

- 2019年 93/94
 - ユーラス大豊ウインドファーム施工



- フィリピン/マニラ首都圏地下鉄事業受注

2020

- 2020年 92
 - フィリピン/ダバオ市バイパス事業受注



- 「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回 国土技術開発賞で「最優秀賞」

- 2021年 93
 - 創立80周年
 - 東名高速道路 日本平久能山 スマートインターチェンジ施工



- 「汚染地盤の加温式原位置浄化技術」が第48回「環境賞」で「環境大臣賞」受賞



- 大分川ダム建設工事が日連連「土木賞」を受賞

- 2022年 94
 - キルギス/ウラルマラル橋梁架替工事受注



- 竹中 康一が取締役会長に就任
- 竹中 祥悟が取締役社長に就任
- 当社施工の新東名高速・新秦野ICと伊勢原大山ICの区間が開通



- 東京本店と国際支店が竹中セントラルビルサウスに移転





作業所事務所と現場詰所をWEBでつなぎオンラインで打ち合わせ



BIM/CIMの活用で業務を効率化

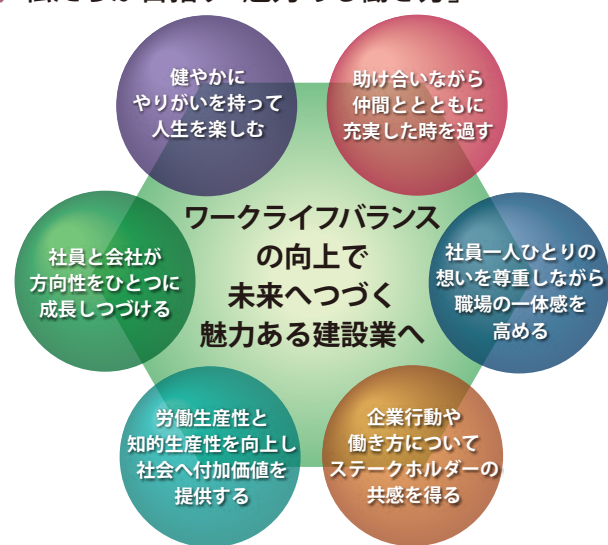
「働き方改革」に取り組み魅力ある会社へ

当社が推進する「働き方改革」は、生産性向上に向けて対策を講じるとともに、職場環境の充実を図りつつ「全従業員が働きやすい環境で心身ともに健康で働き最大限の能力を発揮できる」ことを目指しています。また、従業員と経営トップが顔を合わせて語らう「オンサイトミーティング」を通じて、社員の想いを反映しながらワークライフバランスの向上やワークプレイスの改善に継続して取り組んでいます。

「DX」推進による業務改革&事業変革

これまでの仕事のやり方にイノベーションを起こすべく、建設業におけるデジタル化への道筋をしっかりと見据えて「デジタルトランスフォーメーション=DX」に取り組んでいます。2022年4月には、本社組織内に「DX推進室」を設置。データとデジタル技術を活用して生産性向上や業務プロセスの改善に取り組むとともに、蓄積したデータを積極活用することで多様化するビジネス環境の変化に迅速に適應します。また、全社員でデータを共有し業務を支え合うことでチームで対応できる強い組織への変革を目指しています。

❖ 私たちが目指す「魅力ある働き方」



ワークプレイスの改善

❖ 本社&東京本店をリニューアル

2022年には、東京本店・国際支店と本社機能の一部が「竹中セントラルビルサウス」の新オフィスに移転し、併せて本社オフィスのリニューアルを行いました。WEB会議ブースや憩いのフリースペース「光の運河」、多目的に使える「共創エリア」など時代に即したワークスタイルを志向する機能的な新オフィスによって、業務効率の向上や労働環境の改善、従業員満足度の向上が期待されます。



WEB会議ブース(本社)



多目的に使える「共創エリア」(東京本店)

❖ 作業所事務所のフリーアドレス化

横浜青葉IC作業所では、従来の形式にとらわれないワークプレイスとして事務所を「フリーアドレス化」。時代に即した柔軟な働き方にチャレンジしています。



ICTやBIM/CIM活用による業務の効率化

ICTやBIM/CIMを活用して生産性向上を図るとともに業務を効率化して労働時間を削減すべく「ICT推進グループ」を設置。GNSS・レーザースキャナ・UAV写真測量やICT建設機械、BIM/CIM等を複合的に活用した「ICT施工」の全国展開を図りながら、「ICT推進」の中核を担う人材を育成しています。



ICT建設機械



UAV写真測量



3次元測量データ



GNSS測量機器のデモンストラーション&研修

ワークライフバランス

会社を支える従業員の誰もがやりがいをもって健康に働き、充実した生活を送れるよう、意見交換を行いながら「ワークライフバランス」の向上に取り組んでいます。子育てや介護を支援する「時短勤務」や「スライド出勤」はもとより、不測の事態が起きても業務を継続できるよう「テレワーク」や「リモート会議」など多様な働き方を推進しています。



在宅勤務(テレワーク)



リモート会議

2024作業所働き方コンセプト

❖ 作業所の「週休2日」実現に向けて

作業所における「労働時間の削減」を目指して外部コンサルと連携。データに基づく働き方の分析と従来の働き方に対する意識改革を行うとともに、ICT活用やDXによる業務の効率化、新しい現場運営方法の確立と浸透、技術レベル&作業所管理業務の理解度向上に向けた教育体系の整備などを網羅した総合的な指針となる「2024作業所働き方コンセプト」を策定し、働き方改革を推進しています。



現場詰所・休憩所を事務仕事が行える環境に整備



オフィスカーで業務を効率化

VOICE

「週休2日」で仕事もプライベートも充実！

これまでは、昼間は現場で施工管理、夕方からは事務所で内業をするのが当然という意識でしたが、「週休2日」で働くようになると、業務時間内に確実にその日の作業を終わらせることが重要です。そのため、工程を考えながら広い視野で俯瞰的に業務を把握して「作業の段取り」や「効率の良い仕事」を強く意識するようになりました。

今は、毎週末が連休と決まっているので予定を入れやすくプライベートも充実しています。今後は、休日の時間を有効に使えるよう資格取得などの自己研鑽にも充てていこうと考えています。



東京本店 / 作業所
加藤 知亮さん(2017年入社)

土木を専門とする当社は、激甚化する災害に負けない「強い国土」に向けて「地盤改良技術」を追求し将来に亘って国民の「安全・安心な暮らし」を支えつづけます。



大規模複合用地における地盤の液状化対策(千葉県)

強い国土を支える「地盤改良技術」

1975年に当社が開発した「深層混合処理工法(DCM工法)」は、海底や河川などの軟弱地盤にスラリー状のセメント系固材を添加・混合して地盤を強固に改良する技術で、DCM専用船による海底地盤の改良工事で、東京湾横断道川崎人工島工事(1990年)、関西国際空港Ⅱ期工事(2000年)、東京国際空港D滑走路(2007年)など数多くの実績を遺してきました。

その後、海底・河川だけでなく建築工事における軟弱地盤の改良や地盤の液状化防止など陸上工事のニーズが高いことから、1981年に「DCM-L工法」へと発展。土木工事のみならず、建築構造物の基礎工事などにも数多く適用され、2004年には(財)日本建築総合試験所から「建築技術性能証明」を取得。軟弱地盤の支持力増強や地震時の液状化対策において、コストや工期に貢献する「安全で信頼性の高い地盤改良工法」として広く認知されています。

海底・河川から陸上へと進化した地盤改良技術「DCM工法」は発展を続け、山留を用いずに掘削する「DCMオープンカット工法(DOC工法)」や軟弱な地盤を格子状に囲んで地盤改良する液状化対策技術「TOFT工法」、「DCM-L工法」による改良体で遮水壁を構築して汚染土壌を封じ込める技術、住宅地など狭隘な施工条件下での液状化対策技術「スマートコラム工法」など様々な技術に応用されています。

- | | |
|-------|---|
| 1975年 | ・DCM工法(深層混合処理工法)を開発 |
| 1979年 | ・DCM工法が第31回毎日工業技術賞を受賞 |
| 1990年 | ・大規模オープンカット工法「DOC工法」を開発 |
| 1992年 | ・耐震固化工法「TOFT工法」を開発 |
| 1995年 | ・阪神淡路大震災の地盤沈下被害のなかで「TOFT工法による液状化防止効果」を立証 |
| |  |
| 2002年 | ・地盤改良処理機の建入れ精度制御システム「パペット工法」を開発 |
| 2004年 | ・TOFT工法が第4回国土技術開発賞を受賞 |
| 2006年 | ・DCM-L工法が「建築技術性能証明」を取得 |
| 2011年 | ・DCM-L工法に「4軸機」を投入 |
| 2013年 | ・DCM-L工法が『土壌汚染封じ込め性能証明』を認証 |
| | ・DCM-L工法で施工された地盤改良の施工品質を3次元で見える化する技術を開発・実証 |
| | ・宅地の液状化対策技術「スマートコラム工法」を千葉県浦安市で実証・公開 |
| 2015年 | ・スマートコラム工法が地盤工学会関東支部技術賞受賞 |
| 2019年 | ・DCM-L工法が『建築技術審査証明』を改定設計基準強度5,000kN/m ² に対応 |
| 2020年 | ・「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」が第22回「国土技術開発賞」最優秀賞を受賞 |



DCM工法による河川の地盤改良(東京都)



DCM工法による天津港海底地盤改良(中国)



DCM-L工法による臨港道路の地盤改良(三重県)



3点式施工機による高速道路盛土区間の地盤改良(茨城県)

国土技術開発賞で「最優秀賞」

東日本大震災に伴い浦安市などの戸建て住宅地で深刻な液状化被害が発生。恒久対策が望まれるなか、当社及びケミカルグラウト(株)は、家屋に住民が居住したままで地盤改良施工が可能な「既存住宅の住まいながら液状化対策工法」を開発し第22回 国土技術開発賞で『最優秀賞』を受賞しました。

開発技術の特徴

- ・複雑な地盤条件に対応する新しい設計法(疑似3次元解析)
- ・「小型機械攪拌式スマートコラム工法」により6m幅程度の街路における効率的施工を実現
- ・「超小型高圧噴射攪拌式エコタイト工法」により住宅間の超狭所施工(幅80cmの隙間)を実現



DCM船による海底の地盤改良(東京都)



高速道路盛土工事における地盤改良(徳島県)



住宅地の液状化対策(千葉県)

VOICE

地盤改良技術の適用拡大で災害に強い社会に
技術研究所・研修生の時から地盤改良技術の開発に携わり、研究員となってからも当社の看板技術である地盤改良技術の研究・開発に長く携わってきました。

激甚災害が日常化しつつある昨今、インフラ構造物に対する延命化対策や更なる耐震補強ニーズが高まっています。さらに、近年の異常気象に伴う集中豪雨では、河川堤防の決壊や盛土崩落に伴う土石流など、これまでは想定されなかった被害も数多く発生しています。

当社は、大規模工事における地盤改良のみならず、従来は不可能とされた「既存の宅地に居住したままでの液状化対策工事」に至るまで多種多様な地盤改良技術を有し、数多くの施工実績を誇っています。それらの施工の有効性は、阪神淡路大震災や東日本大震災においても証明されてきました。



今後も引き続き、地盤改良技術の適用範囲拡大に努め、「災害に対して粘り強い社会インフラの構築」に寄与していきたいと思います。

技術・生産本部/技術開発部長
小西 一生さん(1990年入社)

高速道路や新幹線など便利で安全な「高速交通網」は現代の生活に欠かせない存在です。
当社は、社会をつなぐ「交通インフラ」の整備を通じて快適な暮らしを未来へつなげていきます。



北陸自動車道 上市スマートIC(富山県)

発注者：中日本高速道路株式会社 金沢支社
工事内容：土 工：道路掘削・構造物掘削 11,857m³
盛土工：路体40,003m³、上部・下部路床24,955m³、
載荷盛土9,890m³
カルバート工 4基、法面工、用・排水工、他一式



VOICE

大勢がベクトルを合わせ一丸に、これぞ土木！

供用中の北陸自動車道にスマートインターチェンジを構築する本工事では、工法の変更をはじめ大雪やゲリラ豪雨など様々な困難に遭遇しましたが、作業所メンバーの懸命な頑張りに加え名古屋支店・協力会社・発注者がベクトルを同じくし、一丸となって邁進した結果「開通日遵守」という目標を見事クリア。すべての工事関係者に感謝するとともに、人々の生活や命を支える社会インフラを完成させた達成感、そして何より“土木の素晴らしさ”を改めて実感できました。

初めての監理技術者そして作業所長まで経験し、正直眠れない夜もありましたが、経験豊富な先輩方の助言や頼もしい後



輩にも助けられ、「当社の未来は明るいなぁ」と嬉しい気持ちで一杯です。
今は営業所長という未知の世界に挑戦中ですが、あの時の経験や人との繋がりが『礎』になっていくものと感じています。

作業所長
毛利 大志さん〈2007年入社〉



東名高速日本平久能山スマートインターチェンジ(静岡県)



四国横断自動車道 旭野(徳島県)



新東名高速道路 秦野インターチェンジ(神奈川県)



北陸新幹線 南越前鋼製シェルター他(福井県)

発注者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局
工事内容：南越前地区：L=284m、鋼製シェルター工 284m (1,055t)
鯖江地区：L=55m、鋼製緩衝工 55m (164.3t)
吉谷路盤18m (91.0t)、他一式



VOICE

大規模プロジェクトに携われて「土木屋冥利」

本工事は、降雪地帯の山間部に雪避けの鋼製シェルター(南越前地区)を構築するとともに、列車がトンネルに進入する際に発生する“微気圧波”を緩やかにして近隣への“衝撃音”を抑制するために鋼製緩衝工(鯖江地区)を施工するものです。約20km離れた2つの工事箇所に加え、他工区の先行土木工事や軌道・電気工事との工程調整、“夏の高湿多湿”と“冬の豪雪”など北陸の気象にも苦慮。さらに、自社単独工事で初めての作業所長の責務に戸惑いもあるなか、支店の営業部門・技術部門・管理部門の支援と少数精鋭ながら勢いある若い職員の頑張りのおかげで、無事竣工を迎えることが出来ました。



「北陸新幹線工事」という国家プロジェクトに携われた誇り、そして会社一体となった「安全第一&品質確保」の取り組みによりお客様に喜んで頂けたことは正に「土木屋冥利」に尽きると思っています。

作業所長
粟津 佳也さん〈1996年入社〉



北陸新幹線 武生橋りょう(福井県)



北陸新幹線 敦賀駅高架橋(福井県)



北陸新幹線 丸岡春江高架橋(福井県)

普段なにげなく利用しているトンネルや地下通路などは土木技術でつくられています。
当社は、暮らしを便利にする「社会インフラの整備」を通じて安全で快適な生活を支えています。



北陸新幹線 第2福井トンネル(福井県)

発注者：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局
工事内容：トンネル延長L=1,683m、掘削断面78.3m²、坑門工3基、セメント補強盛土橋台1基、Ct桁1橋、RCシェルター工90m、RC・鋼製緩衝工各1基、深層・中層混合処理工法約1,500m
トンネル：掘削・インバート・覆工L=1,683m
路盤工1,812m、坑門工3箇所、他一式



VOICE

技術を駆使しての「ものづくり」に丸となって
本工事は、延長1,683mのトンネル工事が主体とはいえ、地盤改良工も含めた明かり区間の工事数量も非常に多く計画されていました。ところが、北陸特有の気象条件はもとより、工事開始当初は、資材(生コン・碎石)や人員の不足などで施工が思うように進まず、工期厳守に不安を感じていました。そのため、発注者や本・支店の技術部および協力会社の職人方との協議・交流を通じて一步步問題点を解決していくことに努め、何とか工期内に工事を完了することができました。苦心・苦労を重ねてようやく工事が完成した時は言葉に表せないほどの達成感、と同時に、頼れる上司・先輩や優秀な後輩、JV職員・協力会社の方々など多くの人に助けられてこそその竣工と改めて心より感謝。今後もこの気持ちを忘れずに技術・知識をスキルアップしながら、「土木のものづくり」に挑んでいきたいと思ひます。



現場代理人
滝 英紀さん(2004年入社)



天神「因幡町通り地下通路」(福岡県)

発注者：西日本鉄道株式会社、福岡地所株式会社
工事内容：地下通路築造工事(土木・建築)：延長145m、掘削深度11m
掘削土量15,000m³、路面覆工面積1,500m²
地下通路有効幅：W=6.0m、高さH=3.42m
建築内装工事一式、電気・機械設備工事一式



VOICE

都市土木は苦勞が多い分「達成感」はこの上ない
本工事は、福岡市の「天神ビッグバン」事業の一環として福岡市中心部の地下鉄天神駅から市役所庁舎や天神ビジネスセンターを結ぶ地下通路を新たに築造するものです。施工場所が、ビジネス・ショッピング・観光の中心地なので人や車両の通行が非常に多く、施工の大半は夜間工事。さらに、狭い道路幅の中での「資機材置き場の確保」や近隣ビルの一斉建替工事との「工程調整」に四苦八苦。そうした中で監理技術者として計画した工程通りに施工が進み、完成した地下通路が供用開始された時は「この上ない達成感」。都市土木は苦勞が多い分「やり遂げた喜び」は大きいと実感しました。



5年間に亘り一緒に頑張ってくれた作業所メンバーと協力会社の皆様には、改めて心より感謝。今後も様々な工事に挑戦し、「お客様に満足頂けるものづくり」を通じて成長していきたいと思ひます。

監理技術者
山内 佑太朗さん(2009年入社)



北海道新幹線 立岩トンネル「ルコツ」(北海道)



東北中央自動車道 上保原トンネル(福島県)



中部横断自動車道 東根熊トンネル(山梨県)



国道161号小松拡幅北小松トンネル(滋賀県)



日本生命栄ビル新築工事に伴う地下接続通路設置工事(愛知県)



大手町二丁目地区(再)関連地下通路(東京都)

自然災害が激甚化する近年、人々が快適に暮らせる「安全・安心な社会」が求められています。
当社は、ダムや堤防・洪水調整施設等の整備に取り組み、土木の叡智で安全・安心な暮らしを守ります。



名古屋市 広川ポンプ所(愛知県)

発注者：日本下水道事業団

工事内容：躯体：ニューマチックケーソン工法
(寸法 52.0m×29.5m×63.7m)

鉄筋工 約9,500t、コンクリート工 約47,000m³、
静的締固め砂杭工法 902本、薬液注入工 一式、
他一式



VOICE

ケーソン工事の実績・経験を活かす若手に期待

本工事は、名古屋駅周辺を含む中川運河上流地域および露橋地域の浸水対策を目的とした広川ポンプ所の地下躯体部分を「ニューマチックケーソン工法」にて築造するもので、地下施設は名古屋城が全て収まる規模となります。

また、広川ポンプ所は、狭隘な用地であるなかで住宅地にも近接していたことから、作業時間が制限されていましたが、代表会社と一緒に知恵を出し合い、クリティカルとされた躯体構築の工程を短縮するための方策を立案・実行し、幾多の困難を無事乗り越えることが出来ました。

思い返せば様々な苦心・苦労がありましたが、前向きに頑張ってくれた若い職員には感謝あるのみ。同時に今回の大規模ケーソン工法の工事実績や近接構造物への影響を低減させる「沈設管理」の知識と経験を、是非とも当社の将来に活かしてもらいたいですね。



作業所長
砥上 和之さん〈1983年入社〉



大分川ダム(大分県)



小石原川ダム(福岡県)



宮古仲原地下ダム-箕浦西部(沖縄県)



盛川筋塩場地区河川災害復旧(岩手県)

発注者：岩手県

工事内容：施工延長 L=2,358m、盛川防潮堤(築堤護岸) L=891m、
市道付替(右岸線) L=284m、(川口橋線) L=466m、
旧橋撤去 L=157m、普金地区防潮堤 L=560m、他一式



VOICE

大船渡の皆さまの優しさを仕事の励みに！

本工事は、盛川の「堤防嵩上げ」に加え「新設された橋兩岸の道路接続及び旧橋の撤去」と「海岸防潮堤の築造」が複合された東日本大震災の河川災害復旧工事。馴染みのない東北の大船渡で初めて現場所長を任せられ、一から作業所を立ち上げて運営するのは大変でしたが、頼れる諸先輩方や優秀な若い職員たちに助けられながら早7年が過ぎました。

防潮堤の築造箇所には太平洋セメントの工場があるため、年中無休&24時間操業を妨げずに工事を進めていくのに苦労はありますが、地元の方々の優しさに触れると「土木工事は人々の暮らしを支える大事な仕事」と改めて実感。これが仕事のモチベーションアップにも繋がっています。

工事も終盤になりましたが最後まで気を緩めずに安全と品質を確保。何より、大船渡の皆さまと笑顔で喜びを分かちあって竣工を迎えたいですね。



作業所長
岸田 裕さん〈1994年入社〉



大船渡港跡浜地区海岸防潮堤(岩手県)



青野沢川河川堤防整備(宮城県)



由良川相長川水門(京都府)

SDGsへの取り組みとして、クリーンエネルギーや周辺環境に配慮した土地活用への期待が高まるなか当社は、環境と共生するグリーンインフラの構築を目指しサステナブル社会の実現に貢献していきます。



西目西ノ沢風力発電所(秋田県)

発注者：四電エンジニアリング株式会社

工事内容：風車基礎工 2基

基礎杭工 Φ1,800mm×16本、基礎躯体コンクリート 680m³/基
取付道路整備工 500m、伐開除根工 29,900m²、
仮設道路工 665m、連系変電所設備基礎工 4基、他一式



VOICE

仲間と一緒に成し遂げる喜びこそが土木の魅力

脱炭素社会に向けて期待される風力発電所を建設する本工事は、風車の輸送組立を目的とした造成工事・連系変電所工事及び風車基礎躯体工事をおよそ2年間の工期で施工するもの。連日の降雨による工程調整に四苦八苦した造成工事から冬季打設における品質確保に苦労した基礎躯体工事まで、本支店の支援や経験豊富な諸先輩からのアドバイス、そして何より作業所職員・作業員の懸命の頑張り。これら多くの方々の助けがあったからこそ所長の責務を全うできたのだと心より感謝。完成した風車が日本海沿岸特有の風を受け、力強く回転し始めたときは涙が出るほど感動しました。



東北では、これからも風力発電の案件が数多く見込まれますので、仲間たちの協力・支援に改めて感謝するとともに、本工事の経験を各自が活かして成長し、なお一層活躍されることを願っています。

作業所長
藤村 圭佑さん〈2008年入社〉



ユース大豊ウインドファーム(高知県)



オプトン成田神崎太陽光発電所(千葉県)



防府バイオマス・石炭混焼発電所(山口県)



マストヒルズ東豊中開発(大阪府)

発注者：積和不動産関西株式会社

工事内容：開発面積 2.4ha、計画戸数 100戸

準備・仮設工事、撤去工事、土工事、擁壁工事、
道路工事、排水工事(雨水・汚水)、調整池工事、
付帯設備工事、他一式



VOICE

造成の竹中、品質の竹中などの伝統を次世代に

本工事は、大阪北部の鉄道や空港、高速道路へのアクセスの良さと自然環境に恵まれた豊中市での宅地造成工事でした。施工場所が住宅や団地、幼稚園等に囲まれた街中での施工に加え、土工事における品質管理や工程管理に大変苦労しましたが、経験豊富な先輩方のアドバイス方に加え、その指導の下で頑張ってくれた20代の職員たちにも助けられ、無事に竣工することが出来ました。また、完成した宅地に当社の社員寮が新築され、とても感慨深い現場となりました。

「竹中土木に任せてよかった!」とお客様に喜んで頂ける造成工事は大きな喜びと達成感が感じられ、私たちは「造成の竹中」を自負し仕事にプライドを持っています。

若い職員にもこの土木工事の醍醐味を味わってもらえるよう育成に励むとともに、「品質の竹中」などの伝統を次世代へ繋げていくつもりです。

作業所長
菊田 一寿さん〈1999年入社〉



伊達市高子駅北地区土地区画整理事業(福島県)



那覇広域都市計画事業・アワセ土地区画整理事業(沖縄県)



はつが野三丁目開発・宅地造成(大阪府)

社会環境の変化に適応した「既存インフラ延命」のニーズが高まるなか

当社は、環境と共生する「強い社会基盤」の構築を推進して社会の持続的発展に貢献しつつけます。



東九州自動車道荏隈高架橋他2橋耐震補強 (大分県)

発注者：西日本高速道路株式会社 九州支社

工事内容：全長：1,441m

構造物掘削 13,810m³、RC巻立工 86橋脚 (2,896m³)、炭素繊維巻立工 52橋脚 (6,637m³)、PCM吹付工 3橋脚 (102m³)、支承取替 12基、落橋防止装置 138本、制震装置工 8箇所、水平力分担構造 32基、橋座補強工 3箇所、他一式



VOICE

社会インフラの延命対策は土木技術者の使命！

本工事は、東九州自動車道の荏隈IC～大分光吉IC間の荏隈高架橋・七瀬川橋・大分川橋の3箇所(施工延長約1.5km)において、橋脚149基の耐震補強工事を行うものでした。

九州支店で初めての耐震補強工事のため、経験者が全くいない中で的人员配置や数ヵ所の工事が渇水期施工(11月～5月)の制約がある中での工程管理、住宅・小中学校と近接する区間での安全&騒音対策など苦心・苦労は多々ありましたが、他店の協力や大阪本店・技術設計部の支援のもと、頼れる若い職員と一緒に業務の効率化やICT施工を推進して品質・工程を遵守した結果、お客様からも高い評価を頂きました。



高速道路や橋など「社会インフラの延命対策」は、私たちが抱える待ったなしの課題ですから、今回の経験を糧に一回り成長した若い職員たちが、必ずや未来に活かしてくれるものと期待したいですね。

作業所長
古賀 敏明さん〈1991年入社〉



常盤高架橋他3橋 耐震補強 (香川県)



東名横浜青葉インターチェンジ耐震補強 (神奈川県)



東北道六万部橋他 跨高速道路橋耐震補強 (埼玉県)



綾瀬川護岸 耐震補強 (東京都)

発注者：東京都建設局 第六建設事務所

工事内容：平場コンクリート撤去・復旧一式、掘削・埋戻・大型土のう 480m³、孔工・充填工 383本、高圧噴射攪拌工 348本、護岸補修工、断面修復・塗装、他一式



VOICE

平穏で快適な生活を守る土木に誇りを持って！

河川護岸の耐震補強工事は、近隣住民の安全な暮らしを守るために、既設護岸の堤防機能を確保しながら施工を行う必要があります。本工事においても、工事期間中に台風19号の影響で陸間が数十年ぶりに閉鎖される事態もありました。

また、施工場所が住宅街隣接のため、工事車両の交通安全や近隣住民への環境影響の低減に細心の注意を払いました。施工においては、事前調査で判明した昭和初期のものと思われる旧護岸の撤去など、改修工事ならではの困難にも遭遇しましたが、職員と協力会社が一体となって安全管理・品質管理に務め、結果「完全週休2日」で現場を運営し、無事に竣工することができました。



これからも「社会インフラを維持することは、人々の平穏で快適な生活を守ることである」との『土木屋の誇りとやりがい』を持ち続け、職務を全うしていきたいと思います。

作業所長
大久保 周一郎さん〈1994年入社〉



大阪地下鉄2・5号線耐震補強 (大阪府)



首都高速道路 (永福) 上部工補強 (東京都)



海老取川防潮堤耐震補強 (東京都)

1941年設立の海外土木興業(株)をルーツとする当社の海外事業は開発途上国の経済発展に大きく貢献。現在は、東南アジアを基軸にグローバル展開を図るとともに次代を担う人材の育成にも注力しています。



子供たちにきれいな水を…ヌサトゥンガラ給水事業(インドネシア)



鉄道近代化事業(ルーマニア)



ハイウェイ整備事業(ジョージア)

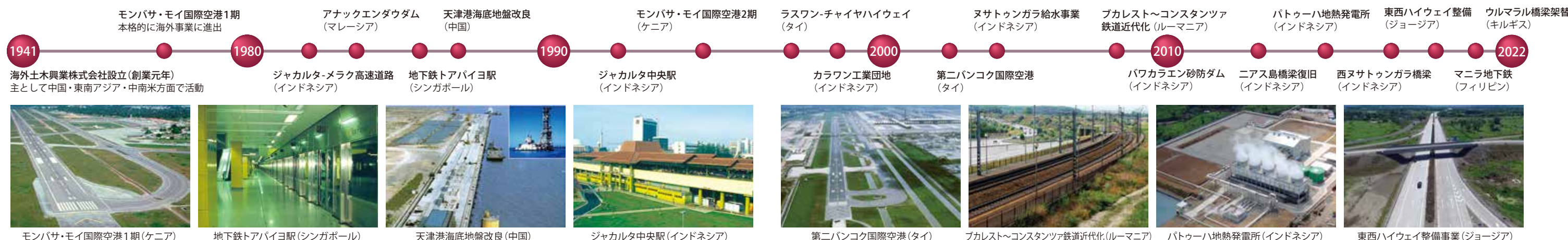
東南アジア・中央アジア・東欧などの地域でODA案件を中心に営業活動を進めるとともに海外事業を経営基盤の一つとして継続すべくグローバル人材の育成を図っています。

当社は「2025年ビジョン」において、会社像の実現に向けた全社戦略に「事業基盤の進化」を掲げ、「海外事業の基盤構築」をその重要戦略のひとつとして挙げています。東南アジアにおいては、2016年に「フィリピン支店」を開設し、現在は「マニラ首都圏地下鉄」と「ダバオ市バイパス工事」2つの大型プロジェクトに参画しています。また、東欧ジョージアの「ハイウェイ整備」の施工実績を活かして2021年11月に「キルギス・ウルマルラ橋梁架け替え工事」を受注し、中央アジアへの展開を図っています。海外事業を経営基盤の一つとして継続するためには、人的リソースへの投資やリスクヘッジはもとより、蓄積した海外事業のノウハウを次世代へ継承していくことが肝要。そこで、2022年から「海外研修生制度」を導入し、全社から意欲および適性が高い人材を選抜し、海外プロジェクトに必要な知識やマネジメント業務を早期に習得させることにより将来の中核を担うグローバル人材の育成を図っています。



海外研修生/キルギス
石川 拓実さん(2019年入社)

◆海外プロジェクトの歩み



モンバサ・モイ国際空港1期(ケニア)



地下鉄トアパイヨ駅(シンガポール)



天津港海底地盤改良(中国)



ジャカルタ中央駅(インドネシア)



第二バンコク国際空港(タイ)



プカレスト〜コンスタンツァ鉄道近代化(ルーマニア)



パトゥーハ地熱発電所(インドネシア)



東西ハイウェイ整備事業(ジョージア)



フィリピン/マニラ首都圏地下鉄事業(2020年〜)

マニラ都市部の交通渋滞の緩和を目的に計画されたフィリピン初の地下鉄建設工事で、当社を含むJVは、延長6.9kmのシールドトンネル及び3駅舎と車両基地1カ所を施工しています。



フィリピン/ダバオ市バイパス事業(2020年〜)

ダバオ市中心部において、延長約30kmのバイパス道路を建設する事業で、当社を含むJVは、トンネル工事(上下線約2.3kmのトンネル2本を含む約10.7km)を施工しています。



キルギス/タラス-タラズ道路 ウルマルラ橋梁架替他(2022年〜)

日本のODAによる本工事は、キルギスとカザフスタンを結ぶ国際幹線道路にて橋梁架替と1.1kmにわたる道路改良を行うもの。中央アジアは新規進出地域です。作業所の立上げには苦労しましたが、厳しい環境にも負けずローカルスタッフと協力して工事を進めています。当作業所では海外研修生を受け入れており、日々手応えを感じつつ海外工事への理解を深めているようです。海外特有のノウハウは必要なものの基本は国内と同様。業務面のみならず生活総てが貴重な経験となるはずですから、チャレンジしてくれる社員が増えることを期待しています。



増田 貴啓 所長
(1998年入社)



海外経験を糧に一層のレベルアップを

VOICE 長谷川 雅也さん(2016年入社)
初めての海外工事は不安でしたが、会社・上司のサポートを頂きながら楽しく仕事できています。とはいえ、日本の技術を現地スタッフに正確に伝達することにひと苦勞。日本式の押し付けではなく、彼らの意向を取り入れながら肝心な所は「日本仕様」で行うよう指導して「日本のやり方と良い所」を理解してもらえると嬉しいものです。不測の事態への備えと臨機応変の対応力が試される海外工事の経験から技術力のみならず人としても成長し、国内でもこれまで以上のレベルで貢献していきたいですね。

現代社会が求める環境や安全・安心、生産革新などにかかわる最先端の技術開発とイノベーションを指向する独創的なシーズ技術の研究開発は、竹中技術研究所を中心に推進しています。



専門分野の技術者が集う竹中技術研究所

1953年開設の竹中技術研究所は、「時代のニーズ」を先取りした竹中グループ全体の「新技術の創出」及び「実証フィールド」として世界トップレベルの研究を行い、お客様に満足いただける価値を提供しています。

建築や土木など建設全般にかかわる多様な専門分野の技術者が集い“TAKENAKA”の伝統と経験に革新を融合。関連部署や国内外の研究機関と連携しながら世に送り出した数々の技術は、我が国を代表する施工法として高い評価を得ています。

未来を拓く先端技術の研究開発

竹中グループは、これからの「まちづくり」に向けて「地球環境に貢献する技術」「安全・安心・快適性を支える技術」「最先端の空間創造技術」「高度な建設を可能にする技術」の4つの領域で研究開発・技術革新に取り組んでいます。時代とともに変化する社会のニーズ、地域やお客様が抱える課題を的確に捉え、「まちづくり」のあらゆるステージで先端技術・ソリューションを提供していきます。



研究深耕と新価値創造を目指して

「新価値創造力の向上」を目指した2つのコンセプト「一人ひとりの創造性が高まる環境」と「オープンイノベーションを促進する環境へ」を念頭に、既成概念にとらわれないゾーニング・空間設計と最新の建築・設備・情報技術を適用してオフィスエリアを大規模にリニューアルしました。

① Creation 一人ひとりの創造性が高まる環境へ
ABW*でよく見られる「家具・内装による多様性」と、「建築設計による多様性」を掛け合わせ、創造性を刺激するさまざまな空間を構築。さらに、多様な個人が行き交う空間設計により、今までにないコミュニケーションが醸成されることで創造的活動の増加も期待できます。



② Innovation オープンイノベーションを促進する環境へ
外からの刺激によるイノベーションを目指して、課題の発見や解決策の創出につながる深い対話の促進と研究資源のオープンな活用に適した環境へと整備しました。分野や立場を超えたダイナミックかつセキュアな議論を加速させ、時にはお客様さえも巻き込んでイノベーションの創出を後押しします。

* [ABW] Activity based Workingの略
「打ち合わせ」や「集中して思考する」などアクティビティに応じ、ワーカー1人ひとりが自由に執務エリアを選択する働き方。

生産性向上に向けた技術革新

竹中土木は、2025年ビジョンのなかで「生産性向上」を掲げ、「安全・品質」に寄与する技術開発とイノベーションを推進。ICTやBIM/CIMの活用をはじめロボット・UAV・GNSSを用いた「無人化・自動化」技術の開発など、多様なアプローチで生産性向上に向けた「技術革新」に取り組んでいます。



4足歩行ロボット活用に向けた現場検証

土木工事に適応するロボット開発の展開

❖ 先端ロボット工学技術で建設業の未来を拓く「株式会社 人機一体」と提携

2022年12月、先端ロボット工学技術をコアにパワー増幅バイラテラル制御システムとしての「人機」を開発・社会実装し、「世界からフィジカルな苦役を無用とする」ことを目指す立命館大学発の研究開発型ベンチャー企業「人機一体」へ出資。国内外の土木業界が抱える「高齢化・労働者不足・重労働」などの課題解決を見据え、広い視野で先端建設ロボットの活用機会を検討しています。

現場内の省人化や生産性向上・安全性向上のみならず、近い将来の「無人化施工」も見据えて土木分野に適応するロボット開発を推進し、労働災害の無い安全で生産性の高い新たな「土木工事」を目指していきます。



人型重機ロボットの土木分野への活用を目指して

技術研修生を選抜し次代の技術者を育成

建設技術の高度化・多様化に対応すべく全店から「技術研修生」を選抜。2年間の実習・研究を通じて設計・施工の中核を担う次代の技術者を育成しています。

VOICE

作業所長として会社に貢献できるよう精進！

施工管理に10年ほど携わり、多くの作業所長や先輩方と接するなかで視野を広げて技術力を高める必要があると実感。建築や土木の様々な分野のスペシャリストが多数在籍する技術研究所での2年間は、「自身の成長につながり必ずや将来に役立つ」と信じて技術研修生を志望しました。

研修では、最先端の技術・設備に加え竹中グループの優秀なエンジニアと一緒に業務に携わることができるので刺激が多く、毎日がとても新鮮で充実しています。



この研修の成果を自身の成長だけに留めず後輩の育成等にも活かし、将来は作業所長として会社を盛り立てていきたいと考えています。

第63期研修生
尾山 雄基さん〈2010年入社〉

VOICE

技術研修の経験を会社の発展に活かしたい！

現在、技術研究所の研修生として、調査・検査用ロボットの開発や補強鋼板運搬設置用マニピュレータの開発等、主にロボティクス分野の技術開発に携わっています。

ロボットや機械に関する専門知識が少ないため苦労することもあります。携わった研究成果が現場で適用され、うまく行った際のやりがい・達成感は大きいですね。

研修では、知識・技術の習得のみならず技術発表の際の資料作成やプレゼンテーションのスキルも向上。技術研究所で



培った社内外の人脈や知識・技術・経験を作業所や各部門で活かし、会社の発展に貢献できる土木技術者を目指していきたいと思います。

第63期研修生
川田 竜輔さん〈2015年入社〉

高度化・多様化するニーズに応えるべく技術設計部門が関連部署と連携して柔軟な発想で創造力を駆使、プロジェクトを具現化する「設計プラン」や「技術提案」でお客様が抱える課題を解決します。



切羽作業の安全に寄与する事前探査技術の提案



VOICE

トンネル工事の安全で効率的な施工に向けて現在は、本社の技術・生産本部でトンネルの技術支援・技術開発を担当していますが、これまでの工事経歴で印象深いのは、入札前に技術提案を担当し、受注した後は監理技術者の立場で施工に携わった延長2,600mの山岳トンネル工事。一晩で2m近く雪が積もる山奥で脆弱な地山が想定されていた掘削作業では、自らが技術提案した様々な事前探査技術を駆使して崩落を防止。仕上げのコンクリートでもひび割れない高品質な作品をつくり上げることが出来ました。一方で、切羽(トンネル掘削の先端部)災害の苦い経験を踏まえ、トンネル工事における「労働災害ゼロ」を見据えながら、近年の技能者・労働者不足を解決する技術支援や技術開発に力を注いでいきたいと考えています。



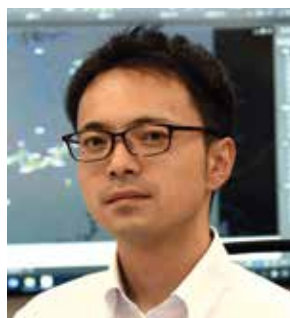
本社/技術・生産本部
森 桂一さん(2001年入社)

風力発電所建設の設計提案と施工支援



VOICE

お客様の満足こそが設計業務のやりがいこれまでの設計業務で特に思い出深いのが、受注前の設計・申請から施工に合わせた変更、そして竣工時の図書整理まで一貫して携わった高知県山間部での風力発電所建設工事。綿密な計画と調整を図りながら設計及び施工支援を行い、お客様や行政との良好な関係を継続できた結果、今日に至る風力発電の業務継続に寄与できたものと自負しています。お客様の意向に沿った提案が求められる設計業務は、行政やコンサルなど多方面にわたる協議・調整が必須なため苦労は多いのですが、要望や課題をクリアできた時の喜びと達成感は格別です。これからも計画から受注、そして施工支援から竣工までをトータルに関わる設計業務のやりがいや面白さを体感していけたら嬉しいですね。



大阪本店/技術・設計部
栗野 延寿さん(2007年入社)

社会の公器としての「会社」を運営すべく管理部門がトータルマネジメントで生産活動と連携、効率的な組織運営で事業活動を支え、お客様からの満足と信頼を得つつけます。



インフラや社会基盤の整備を通じて「強い国土と人々の安全で快適な暮らしを守る」ことを使命とする当社は、調査・計画から設計・施工・アフターサービスまで「ものづくり」に関わる全てのステージで管理部門が協調しながら生産活動と連携。事業計画の立案をはじめ「ヒト・モノ・カネ・情報」の適正な調達・配分などトータルマネジメントで円滑な事業活動を支えています。また、事業の成果を集計・管理して企業活動全体の質の改善向上に努めるとともに、ステークホルダーの皆様に適切に開示。お客様はもとより広く社会から信頼を得つつけることで、企業としての社会的責任を果たしていきます。



VOICE

作業所運営を支えて会社の発展に貢献を！

九州工事グループでは、作業所開設から竣工に至る間の円滑な現場運営と施工期間中の損益管理に加え、支店で実施する安全総大会・事業主研修会や各種式祭事の運営など、少数精鋭のなかで多岐にわたる業務を行っています。業務において社外の方々や接する機会があり、お客様をはじめ近隣住民や協力会社の方々との協議・調整には苦労する面もありますが、工事の円滑な進捗や現場の安全を支える重要な業務を担っていると自負しています。今後も、生産に密接に関わる管理部門の業務への理解を一層深めて作業所の運営を支援するとともに、自己研鑽で取り組む資格の取得や業務知識のさらなる拡大を図ることで、会社の発展に貢献していければと思っています。



九州支店/工事グループ
藤原 太一さん(2014年入社)

VOICE

働く環境を支える人事の仕事に誇りを持って

いま所属する本社/人事部では、当社で働く全社員の社会保険に関する手続きに加え、給与全般に関する業務や社員の福利厚生に関わる業務を担当しています。全国の人事担当者に留まらず社員個々とやり取りする機会もあるので、誰もが自らの仕事に専念できるようサポートする業務は、会社にとって「大切な仕事」と自負しています。また、本社/人事部は、給与・福利厚生に関わる部署のほか、人事制度・人事企画から社員教育までを幅広く担っており、その業務範囲は多岐にわたります。



今後も、会社の最も大切な経営資源である社員の皆さんが、心置きなく安心して働くことが出来るよう、仕事に誇りを持って下支えしていきたいと思っています。

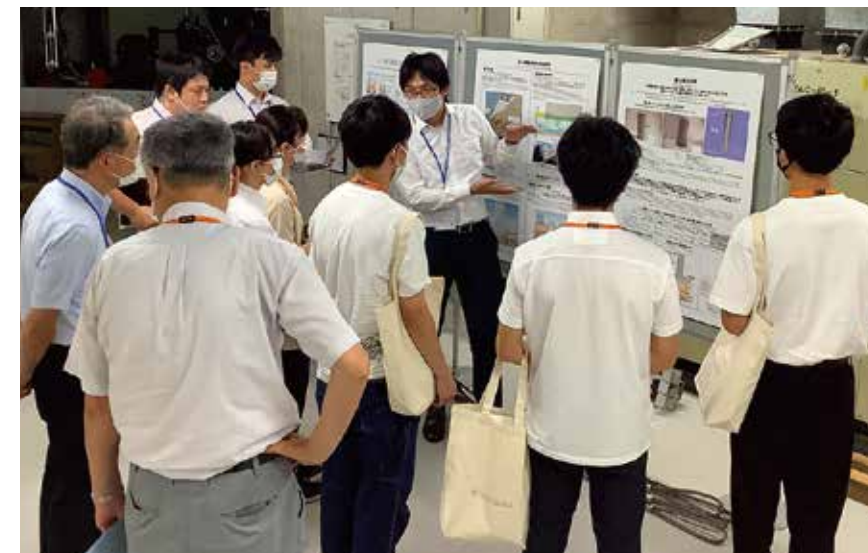
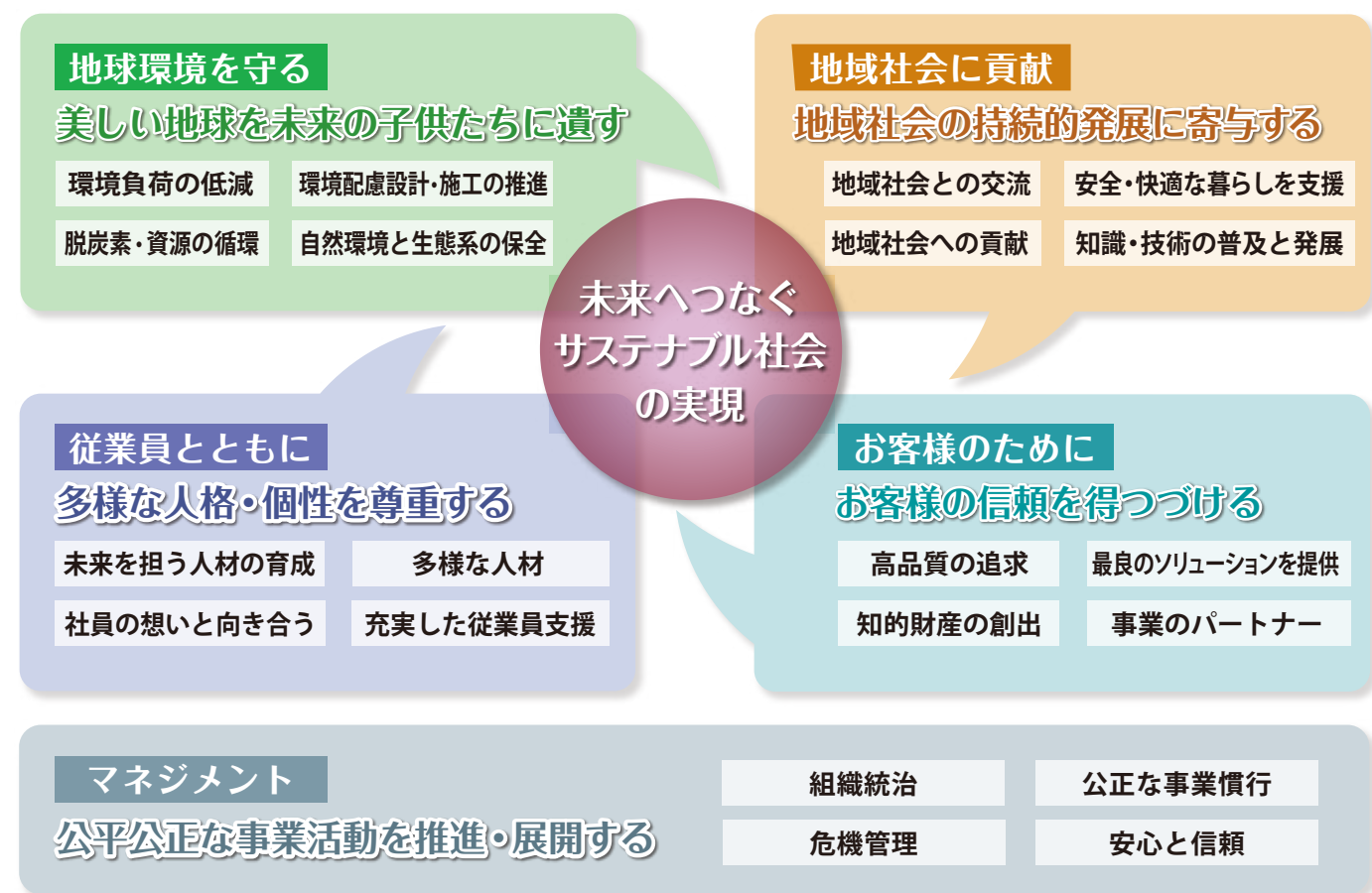
本社/管理本部 人事部
吉丸 貴美子さん(2008年入社)



当社は、創立以来「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもとお客様のニーズに応える「作品」を提供し続けてきました。
そして、お客様の満足とともに社会の信頼を得て社会的価値を高める事業活動を実践してきました。
当社におけるCSR推進の目標は、「地球環境」「地域社会」「お客様」「従業員」「協力会社」といった多様なステークホルダーの皆様との対話を深めながら事業活

動を通して社会的課題を解決し、持続可能なサステナブル社会の実現に繋げることです。
私たちは、「竹中グループCSRビジョン」のもとSDGsや脱炭素社会の実現に貢献して企業評価を高めていくとともに、ICTやBIM/CIM・ロボット・AIを活用した「生産性向上」とDX推進による「業務変革」を加速させ、持続的に発展をつづけることで目標を達成していきたいと考えています。

ステークホルダーの皆様との対話を通した「サステナブル社会」に向けた取り組み



2022年の主な活動計画と実績・事例

活動領域	主な活動計画	主な活動実績・事例	主なSDGs
地球環境を守る	環境負荷の低減	・地球温暖化を抑制する生産活動の展開	
	脱炭素・資源の循環	・環境負荷を最小限に抑える啓蒙活動	
	環境配慮設計・施工の推進	・施工地域の周辺環境への配慮と自然環境の保全	
	自然環境と生態系の保全	・脱炭素社会に向けた資源の再利用・再資源化	
地域社会に貢献	地域社会との交流	・地域との交流を通じた良好な関係の維持	
	地域社会への貢献	・作業所における「地域防災」への貢献	
	安全・快適な暮らしを支援	・地域社会に寄り添った生産活動の実施及び社会貢献活動の推進	
	知識・技術の普及と発展	・地域の「安全・安心」に貢献する活動の推進	
お客様のために	高品質の追求	・生産活動における協力会社と一体となった高品質の追求	
	最良のソリューションを提供	・お客様の要望に的確に応える最適なソリューションの創出と提供	
	知的財産権の創出	・知的財産権の創出及びお客様の還元	
	事業のパートナー	・お客様と社会の「安全・安心」を守る土木技術の革新と開発	
従業員とともに	未来を担う人材の育成	・女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍推進	
	多様な人材	・従業員のキャリア形成と能力開発の支援	
	社員の想いと向き合う	・経営トップと従業員の意見交換を通じた経営改善	
	充実した従業員支援	・全社員が参加する「創立記念総会」の開催	
マネジメント	組織統治	・女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍推進	
	公正な事業慣行	・従業員と社会の「安全・安心」を守る土木技術の革新と開発	
	危機管理	・女性活躍推進をはじめ多様な人材の採用・育成及び活躍推進	
	安心と信頼	・従業員と社会の「安全・安心」を守る土木技術の革新と開発	

環境方針に基づき環境に配慮した設計や環境負荷を低減する施工、環境技術の提案を行っています。
また、脱炭素、省資源・省エネルギー、資源の循環、自然との共生への取り組みを推進しています。

環境負荷の低減



当社は全国の事業所や建設現場において、環境負荷を最小限に抑える様々な工夫や取り組みを推進しています。

❖ 竹中グループ「環境月間」活動キャンペーン

竹中グループは国が推進する「環境月間」と並行して、毎年6月に「環境月間」活動キャンペーンを実施しています。

2022年の主な活動

- 各部門・作業所において「環境月間メッセージ」の伝達・周知
- 「グループ統一ポスター」・「省エネポスター」の掲示
- 自主的な取り組みとして「ライトダウン」を実施
- 竹中グループ「環境・社会貢献賞 優秀賞」の表彰



環境月間「グループ統一ポスター」

環境配慮設計・施工の推進



当社は、施工地域周辺の自然環境への影響を最小限に抑える環境配慮設計・施工を推進しています。

❖ 近隣医療施設へ配慮した環境配慮施工

滋賀県で進める国道改良工事の施工場所は、近隣に総合病院や介護老人保健施設があり、施工においては騒音・振動の発生を可能な限り抑制する工法が求められました。既設水路の撤去・改修工においては当初、大型ブレイカーを使用する計画でしたが、「コア削孔ワイヤー切断工法」と「静的油圧破碎工法」を組み合わせることで騒音・振動をできる限り抑制。また、舗装撤去工においては、既存の舗装を1m角に細かく切断してから撤去する施工方法を採用することで、従来のブレイカーを使った小割り作業に比べ騒音・振動の発生を大幅に抑制しました。



騒音・振動の発生を抑制する施工法を提案・実施

❖ 周辺の自然環境に配慮した施工

福島県で進めるトンネル工事の施工場所は、緑豊かな山深い山間部でありながら周辺には集落も点在していました。そこで当社は、工事車両による粉塵の発生をできる限り低減させるとともに、現場に通じる周辺道路への汚損を防止するため、タイヤ洗浄機の設置と工事用通路にはアスファルト舗装・コンクリート舗装を実施。これらによって周辺環境への影響を最小限に抑えることができました。



工事車両のタイヤ洗浄装置を設置

脱炭素・資源の循環



近年、持続可能なサステナブル社会に向けたSDGsの取り組みが求められていますが、その中でも「脱炭素」や「資源の循環」は非常に重要なテーマです。

❖ 脱炭素に貢献する伐採材の再資源化

当社が兵庫県で進める工場解体・土壌汚染対策工事においては、施工に伴い多量の伐採材の発生が想定されました。そこで、この伐採材を廃棄物とせず、バイオマス発電の燃料とすべく再生工場にてチップ化。再資源化した燃料チップから生み出される「グリーン電力*」を購入し、工事用電力として再利用する取り組みを推進しています。

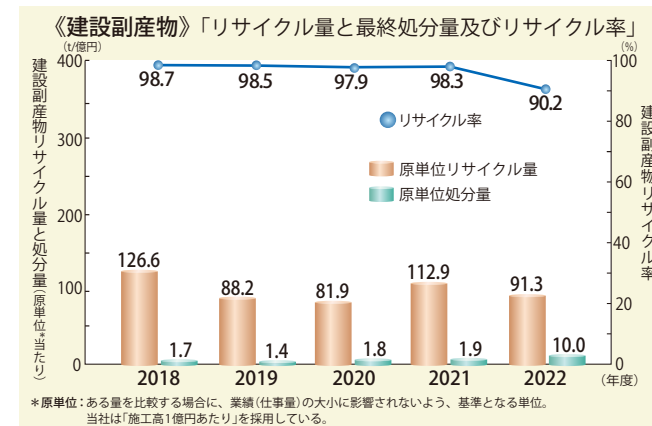
*グリーン電力：従来の電力に比べてCO₂発生量を極端に小さくできるため、地球温暖化防止に向けて期待が高まっています。



伐採材をバイオマス発電の燃料として再資源化

❖ 建設副産物のリサイクル・再資源化を促進

当社は全国の作業所において、工事により発生する建設副産物の発生抑制と再利用・再資源化を促進し、資源循環型社会の形成を強力に推進しています。



自然環境と生態系の保全



当社は全国の建設工事において、自然環境の保全や生物多様性に配慮した様々な取り組みを行っています。

❖ 宅地造成における水路のビオトープ*化

愛知県で進める宅地造成工事では、敷地内に設けられる水路が三面コンクリート張りで計画されていました。しかし、造成前は水田であったため、少なからず造成前の生態系に近づけることが求められました。そこで、この水路に「ビオトープ機能」を付加することを提案。コンクリート張り水路の護岸に「自然石」を配置するとともに自然石による堰堤を数ヵ所配置して水たまりを設けることで、生物多様性が確保できる自然豊かな水路計画としました。将来的にメダカや蛍・トンボなどが生息し、居住された皆様の癒しとなることを願っています。

*ビオトープ：動物や植物が安定して生活できる「生物生息空間」のこと。
「bio=命」と「topos=場所」というギリシア語を組み合わせた造語で、空間の大小に関わらず、魚や虫、多様な微生物が住まう所は「ビオトープ」と呼ばれる。



生態系に配慮した水路のビオトープ化

私たちは地域の皆様との相互理解に努め、良好な関係を構築しながら事業活動を行っています。
さらに、地域社会とのコミュニケーションを大切にしながら社会貢献活動を推進しています。

地域社会との交流

私たちは、全国各地の事業所・作業所において地域コミュニティとの交流を深め、良好な関係を維持・発展させていきたいと考えています。

❖ コミュニティー会報誌への工事内容の掲載

大阪府の宅地造成工事においては、施工前から丁寧な工事説明会を開催して地域とのコミュニケーションを図りました。工事着手後、地域のコミュニティ協議会から「会報誌に工事内容や施工の様子を掲載したい」との申し入れを頂き、現場を案内して取材に協力。後日、会報誌を見た地域の方から「大規模な工事で大変でしょう」といった感想が寄せられました。

❖ 工事見学会を開催

岐阜県で進める道路高架橋工事の現場は、岐阜大学から約6kmと近いこともあり、大学側に授業の一環として「現場見学」の実施を提案。6月～9月にかけて複数回、工学部の学生・教授・研究室生を招いて「工事見学会」を開催しました。橋脚工事の鉄筋・型枠・コンクリート打設など一般的な施工からニューマチックケーソン工法など特殊なものまで様々な施工の様子に学生たちは興味津々。多くの質問も寄せられ大変好評でしたので、竣工まで継続実施していく予定です。

地域社会への貢献

当社は、全国の事業所や工事作業所において社会貢献活動を積極的に推進。地域の防犯・防災や道路環境の整備などを通じて地域社会の発展に貢献しています。

❖ 工事事務所を「こども110番の家」に登録

大阪府で進める宅地造成工事の施工場所は、周辺を住宅地に囲まれており、周辺道路は小学生の通学路にもなっています。そこで当社は、工事事務所を「こども110番の家」に登録し、いつでも子供たちの相談に乗れるようにしました。また、通学路が工事で使用する盛土材の搬入路となるため、「注意喚起標識」を設置して子供たちの交通事故防止にも取り組みました。

❖ 工所用仮囲いに夜間照明を設置

群馬県で進める管路新設工事の施工場所は、付近の道路に照明がないため夜間の暗い時間帯は歩行者や自転車での通行が危険な状況でした。そこで当社は、工所用仮囲いにLED照明を設置し、地域の方々の夜間の安全な通行を確保しました。



地域のコミュニティ協議会の取材で会報誌に掲載



工学部の学生・教授・研究室生を招いて「工事見学会」を開催



「こども110番の家」に登録



「注意喚起」の標識を設置



工所用仮囲いに設置されたLED照明

安全・快適な暮らしを支援

千葉県で進める廃棄物処分場増設工事においては、地元自治会や住民の方々とのコミュニケーションを大切に、様々な地域貢献活動を実施しました。

❖ 市道崩落法面の復旧作業

工事場所に隣接する市道は、地域の方々の大切な生活道路ですが、2019年の台風により法面の一部が崩落。市が復旧工事を計画していましたが、工事中に通行止めが伴う施工方法での実施が予定されていました。そこで当社は、豊富な施工経験を活かして安全な補修工事方法を市に対し提案し、行政に代わって速やかに復旧工事を行うことで、地域住民の安全な生活に寄与しました。

❖ 市道の除雪作業

工事場所に隣接する市道は例年、冬季に数回の降雪で通行車両が危険な状況になります。そこで当社は、職長と合同で除雪作業を行い、地域の方々の安全な通行を確保しました。

知識・技術の普及と発展

当社は、作品や技術の公開を通して「ものづくり」の精神や知識・技術の普及と発展に寄与するとともに、小中学生対象のキャリア教育や特別授業、現場見学会の開催等でステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進しています。

❖ 小学生・中学生へのキャリア教育

技術研究所では、都内4つの小・中学校にて「キャリア教育」を実施。建設業や土木の魅力を伝えるとともに「レンガアーチ橋づくり」を通した土木技術の体験学習を行いました。

❖ 小学生に「理科特別授業」

大阪本店では、子供たちへの理科特別授業を継続実施。授業・実験を通して土木分野への興味関心を高めてもらうとともに、職員の経験を通じた「ものづくり」への想いを伝えています。

❖ 全国各地で展示会に出展

防災や環境問題の解決に役立つ技術・活動を知っていただくとともに、ステークホルダーの皆様からの意見を反映した技術開発を目指して、全国各地で展示会に出展しています。

● 出展した主な展示会 (2022年)

6月/EE東北	10月/北海道都市開発・建設総合展
10月/建設技術フェアin中部	10月/建設技術展 近畿
10月/九州建設技術フォーラム	11月/建設技術展 関東
10月/建設技術フォーラムinちゅうごく	11月/ハイウェイテクノフェア



市道崩落法面の復旧作業



市道の除雪



中学生対象のキャリア教育



建設技術展2022近畿

時代とともに高度化・多様化するお客様の課題やニーズに応える最良のソリューションを提供し、『高品質で魅力的な作品の創造』を継続することでおお客様の満足と信頼を得つつけます。

高品質の追求

当社は、経営理念に「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を掲げ、常に高品質を追求しています。お客様の抱える課題やニーズに最良のソリューションで応えるために、プロジェクトの調査・計画から設計・施工・アフターサービスまでを一貫した流れとして、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを運用しています。また、「品質方針」を定め、プロジェクトの全てのステージで各部門が徹底した品質管理と継続的改善を図るなど、トータルエンジニアリングでおお客様の満足と信頼の継続を目指しています。

最良のソリューションを提供

❖汚染土壌対策の豊富な知識とコストキャップ保証
汚染土壌対策工事に豊富な実績を有する当社は、そのノウハウを活用し、土壌汚染に関する調査・行政手続きから対策計画の立案～施工～完了後の土地活用の提案まで、お客様の要望に合わせた最適なソリューションを提供します。さらに、汚染土壌に関する調査から工事までお客様の費用をFIXし、コスト増加の不安を払拭すべく「コストキャップ保証」の提案も展開しています。

❖汚染地盤加温浄化システムを開発

クロロエチレン類に汚染された地盤に対する原位置浄化システム「温促バイオ®」は、微生物による分解がもっとも活性化する25～30℃に地盤を加温する機能と、不均質な地盤へ加温浄化剤を均一に注入する制御機能を両立した世界初のバイオスティミュレーションによる原位置浄化システムです。事業を継続した状態での浄化が可能なことに加え、重機での掘削除去に比べCO₂排出量を50%以下に削減する本技術は、第48回「環境賞」の「低炭素社会/大気・水・土壌」の分野において「環境大臣賞」を受賞しました。

知的財産権の創出

当社は、特許権や商標権など『知的財産権』の創出に力を注ぎ、その活用にも積極的に取り組んでいます。竹中技術研究所を中心に、様々な分野で行われる研究開発から設計・施工までを対象とし、これらの『知的財産権』を活用することによって、当社の独自優位性を長期的に維持することが可能となります。

品質方針

- 1.「顧客満足の向上」を目指して、品質マネジメントシステムを構築し、実行し、維持し、継続的改善を行う。
- 2.品質マネジメントシステムの効果的運用により、顧客のニーズと期待及び要求事項への適合を図る。
- 3.品質方針を実現するため年度ごとに品質目標を設定し、すべての部門と階層に展開して、その達成を目指す。

竹中土木をパートナーに選んで頂くことによる お客様のメリット

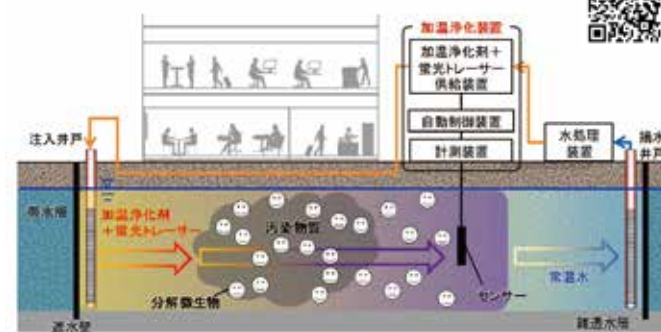
出来るだけ安価かつ効果的に土壌汚染浄化工事を実施したい

要望に合わせた最適なソリューションを提供します

土壌調査の初期段階（不完全な状態）で土壌浄化費用をFIXしたい

「コストキャップ保証」を提案します

「温促バイオ®」の概要



❖2022年に「特許権利」を取得した主な技術

- ① トンネル切羽管理方法
- ② 有機性排水の処理方法及び処理システム
- ③ 騒音低減装置
- ④ 携帯型端末装置、及び測量プログラム

「まちづくり」のパートナー

大阪府北部に位置する茨木市の南目垣・東野々宮地区は、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に、将来的に耕作放棄地の増加に伴う土地の荒廃が懸念されていましたが、一方で広域幹線道路に接しているなどの立地ポテンシャルを活かした「計画的なまちづくり」が求められている地域でした。当社は竹中工務店と連携し、「持続的なまちづくり～サステナブル・コア～」をコンセプトに、2014年より関係者とともにその実現に向けて活動を開始。2017年に準備組合が発足し、2019年に土地区画整理組合の発足を経て、当社が一括業務代行者として地権者の皆様と想いを共有しながら新たな「まちづくり」をスタートしました。2022年7月には区画整理工事の概成を迎え、事業地内幹線道路の開放と一部使用収益が開始となり、南目垣・東野々宮地区の新たなまち「イコクルいばらき」が、未来へ向けて第一歩を踏み出しました。

VOICE お客様の声

信頼できるパートナーに恵まれ事業は順調

茨木市の南部に位置する南目垣・東野々宮地区は、広域幹線道路に接する交通便利性に優れた地域です。今回の土地区画整理事業では、こうした特性を活かし「物流・商業施設が一体となった賑わいのあるまちづくり」を目指し、関係者の皆様と事業の推進に励んでおります。竹中土木様には、事業の一括業務代行者として土地区画整理工事及び組合事務局運営や進出事業者様の誘致といった事業のコアとなる業務をお任せしておりますが、長引くコロナ禍と世界情勢不安による建設資材の高騰や品不足といった逆風のなかで無事故・無災害を貫き、スケジュールに遅れが生じていないことは、御社の尽力によるところ大と心より感謝しております。



事業も後半となりましたが、茨木市南部地域の拠点として相応しい「まちづくり」の実現に向け、変わらぬ支援・協力のほどよろしくお願い致します。

茨木市南目垣・東野々宮
土地区画整理組合 理事長
村田 為紀さま



土地区画整理組合より当社が業務代行者に選ばれる



茨木市南目垣・東野々宮地区土地区画整理事業の全景



新たなまち「イコクルいばらき」幹線道路の開通式典

VOICE 営業担当者の想い

まちづくりでお客様と喜びを分かち合いたい

初めての営業職はまだ五里霧中。提案書や資料の作成業務を通じて、まちづくりや土地区画整理事業の仕組みについて学んでいます。わかりやすい提案書の作成はもとより、上司を見習っておお客様の質問に“その場で答えられるスキル”



を身に付けて信頼獲得に繋げられるように取り組む日々。地域を活性化するまちづくりを通じて、1日も早くお客様と喜びを分かち合えるよう努力していきます。

大阪本店/第2営業部 開発グループ
大瀧 里奈さん〈2016年入社〉

人権はもとより多様な人格・個性が尊重される職場づくりを行うとともに安全・健康にも配慮し誰もが安心して働ける職場環境を確保することで、従業員とともに持続的な成長を実現します。

多様な人材

性別・国籍・年齢などにかかわらず、多様な人材の誰もが働きやすい職場環境の構築を目指して、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。

増えつづける女性技術者を含む新卒採用はもとより、即戦力として期待されるキャリア採用を推進して有為な人材を確保。また、女性従業員の就業継続とキャリアサポートに焦点を当てたダイアログや「女性ならではの」意見を取り入れた職場環境改善に取り組むなど、女性活躍推進を加速させています。また、多くの経験と知見を有するベテラン社員の一層の活躍を期待して「65歳定年制度」を導入しました。

❖ 新たな職場「屋内農園」の創設

障がいのある方が仕事や職場に適応・定着してキャリア形成できるよう、個々の適応状態に配慮した雇用条件や職場環境の整備に取り組んでいます。

2022年3月からは、株式会社スタートラインが運営する屋内農園型障がい者雇用支援サービス「IBUKI(いぶき)」と連携し、「新たな活躍の場」を提供しています。



女性技術者が管理職としてキャリアアップ



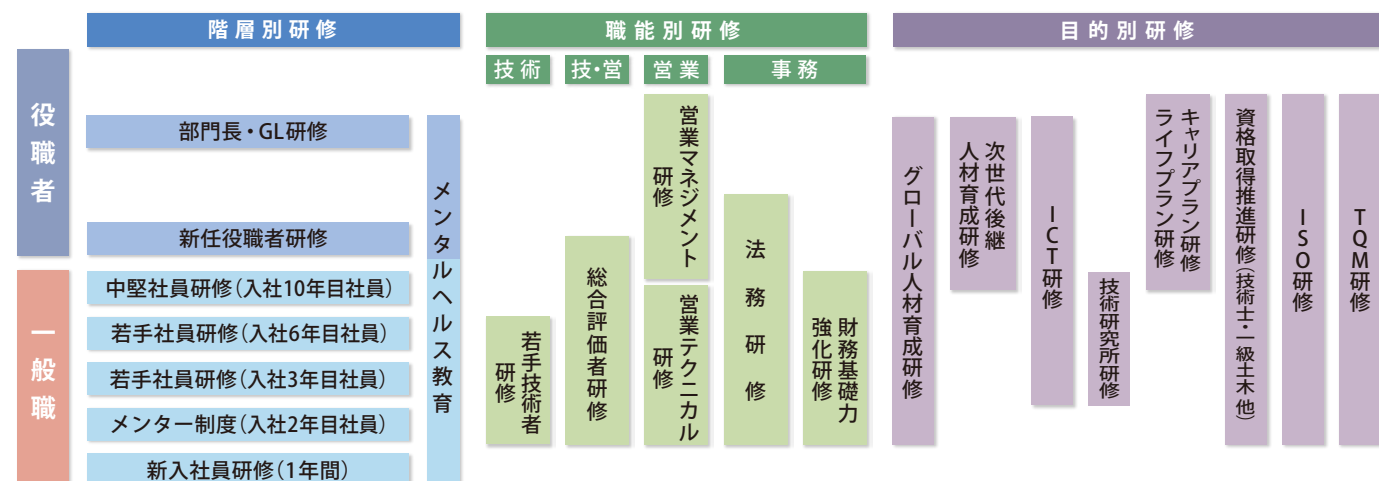
「屋内農園」で働く当社の社員

未来を担う人材の育成

「自ら考え行動できる人材が真のプロフェッショナルとして時代に適合した新たな価値を創出する」という考えのもと、仕事を通じた人材育成を重視しています。

1年間に及ぶ「新入社員研修」をはじめ、一般職や役職者のスキルアップを図る「階層別研修」、技術系から事務系社員まで幅広く対応する「職能別研修」、グローバル人材の育成や技術士等の資格取得を推進する「目的別研修」など、従業員一人ひとりのキャリア形成を支援する継続的な人材育成・教育に力を注いでいます。

❖ 従業員育成・教育体系



従業員の想いと向き合う

❖ オンサイトミーティング

当社は「企業の一番の財産は従業員」と捉え、社長が事業所や作業所に出向いて社員とフェイスtoフェイスで懇談する『オンサイトミーティング』を継続して行っています。

2007年からの開催数は111回、参加した社員は延べ958名。毎回8～10名の若手・中堅社員が参加し、社長からは「経営層の想いと考え」「経営環境及び課題」など、社員からは、職場環境の改善など「会社への要望」や「仕事に対する考え方と将来の夢」などについてそれぞれ意見が交わされます。

さらに、ミーティングの内容は議事録を作成して全社員で認識を共有。「社員の想い」をワークライフバランスの充実や教育機会の拡充等にフィードバックしています。

❖ 創立記念総会の開催

全従業員が参加して行われる「創立記念総会」を毎年開催。各本支店ごとに社員が一同に会して経営方針の説明や優れた業務成果に対する表彰とともに懇親会を催し、経営トップや仲間との歓談を通じて企業の一体感を醸成しています。



オンサイトミーティング(三郷作業所)



創立81周年記念総会(大阪本店)

充実した従業員支援

従業員の誰もがいつでも安心して働ける環境整備を重視。育児や子育て、介護などをフォローする従業員支援制度の充実を図っています。

❖ 主な従業員支援制度《法定を上まわるものを記載》

事項	制 度	内 容
育 児	短時間勤務	子女が小学校4年生の始期に達するまでの間について申出可
	所定外勤務の免除	子女が中学校1年生の始期に達するまでの間について申出可
	始業・終業時刻の繰上げ又は繰下げ	子女が中学校就学の始期に達するまでの間について申出可
	時間外勤務の制限	
	深夜勤務の制限	
介護	勤務時間の繰り上げ、繰下げ特例	勤務時間を変更せずに、時間帯を最大1時間半迄繰上、繰下げが可能
	介護休業の取得日数	対象家族1人につき通算365日迄3回を上限に分割取得可
介護・私傷病	シックリープ(失効年休の積立制度)	私傷病及び家族の介護のために失効年休を最大30日まで利用可
特別休暇	勤続10・20・30年目に付与される長期有給(勤続10年目は土休日除く5日、勤続20・30年目は同10日を付与)	有効期間は4年間連続または分割取得可 未消化日数は特別シックリープに積み増しされ定年まで利用可
災害	被災時の見舞金制度	自然災害などに遭った場合に支給

VOICE

育児休暇で仕事へのモチベーションが向上！

次男が2ヵ月、長男が2歳6ヵ月のタイミングで育児休暇を検討。「作業所の仲間に迷惑をかけないだろうか？」と躊躇はあったのですが、上司に相談すると快く背を押していただけたので半年間の休暇を取得することにしました。

休業中に「家事や子育ての大変さ」を身を以て体験したことで、妻と互いの意見を尊重して話し合う機会が増えましたね。また、子供と長時間接したことで気付いた「叱るより褒める」など、人との関わり方やモノの見方・考え方などの面で一回り成長できたように感じています。

職場に復帰してからも「仕事と子育てをバランスよく」と意識。育児はまだまだ勉強中ですが、仕事中心の生活だった頃に比べ業務へのモチベーションも向上し、限りある時間で「主体的かつ効率的な仕事」を行えるようになりました。



濃密な子育て経験は、仕事と向き合う心の支えになっています。今後もワークライフバランスをさらに充実させながら、子供に誇れる「いい仕事」をしていきたいと思っています。

東京本店/作業所
三木 達央さん〈2011年入社〉

当社は企業理念のもとで「品質経営」を実践し、お客様の満足や社会からの信頼を得るとともに企業としてのガバナンスを高めながら社会的責任を果たしていきます。

組織統治

経営の質の向上と迅速で的確な意思決定を行うガバナンスの充実

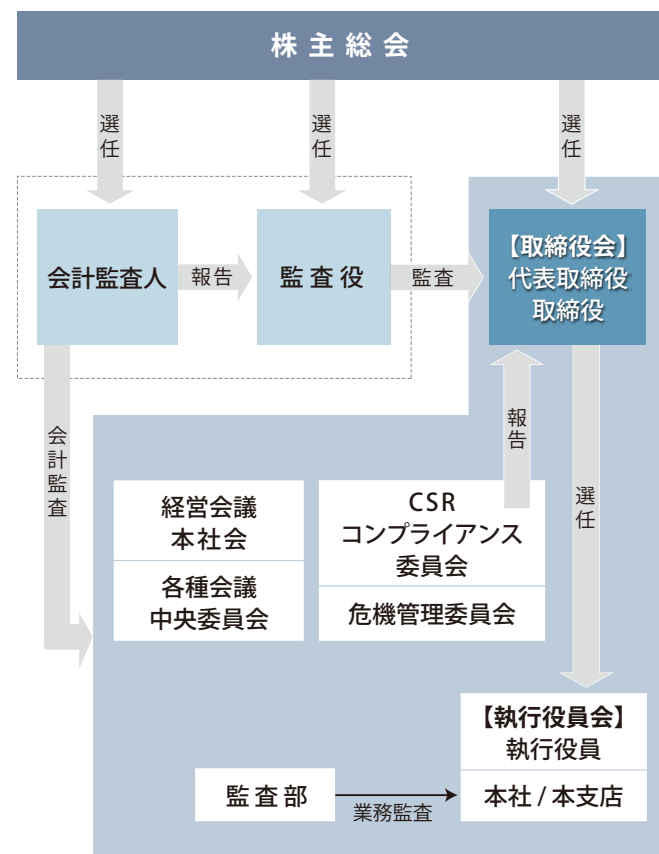
お客様や広く社会から信頼を得て、企業の社会的価値を高めるという考えのもと、企業活動全体の質の改善向上と経営の倫理性・透明性を高めるために、ガバナンス体制を構築し適正な運営に取り組んでいます。

当社は、経営トップが率先垂範して企業倫理の確立と教育・啓蒙を図っています。社員一人ひとりが、企業行動規範を徹底実践することで、法令及びその他の社会規範を遵守し、公正・透明・自由な競争並びに適正な取引を行うことで社会的責任を果たしていきます。

また、ステークホルダーの皆様から信頼され社会的責任を果たしていくために「CSR・コンプライアンス体制」を構築。お客様の満足と社会からの信用を得ながら、良識ある企業活動を実践しています。

内部統制については「内部統制基本方針」に基づき、コンプライアンスを含むCSR活動の推進やリスク事象発生時の危機回避と軽減、及び平時における危機管理活動の推進など、全社的な体制整備や啓発に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制図



CSR・コンプライアンス体制を構築し啓発活動を行っています

CSR及びコンプライアンスを維持・向上させる体制として、社長をトップとする「CSR・コンプライアンス委員会」を設置し、企業行動規範及び関係法令の遵守を推進しています。また、CSR・コンプライアンスを推進する体制として本社にCSR・コンプライアンス推進責任者、各本支店にCSR・コンプライアンスリーダーを選任し、当社並びに竹中グループの一員としての教育・啓発の推進役としています。

具体的な取り組みとしては、竹中グループ全体で「eラーニング」を利用したCSR・コンプライアンス教育の実施や「CSR・コンプライアンスニュース」の配信を行うほか、毎年11月に実施する「竹中グループCSR・コンプライアンス月間」において、社外講師による「CSR役員セミナー」の開催や職場における「CSR・コンプライアンスミーティング」を実施。このような活動を繰り返し行うことで、コンプライアンスを含むCSRに関する知識・意識の向上を図っています。



CSR役員セミナー

コンプライアンス・ヘルプライン

コンプライアンス経営への取り組みを強化するために、コンプライアンス違反等に関する通報を適切に処理し、自浄作用を高めるとともに、外部への通報による風評リスク等を減少させることに資するため、従業員用としてコンプライアンス・ヘルプライン及び竹中グループ・コンプライアンスヘルプラインを、また、社外の協力会社関係者用としてパートナーズ・ネットを設置しています。

公正な事業慣行

関係法令の改正内容の周知徹底と建設法令遵守への継続した取り組み

「法令遵守」に基づいた適切な企業活動を実践するために、関係する様々な法令などの改正及び運用動向の社内への周知・徹底に努めています。会社経営等にかかわる法改正はもとより建設業や労働安全・環境などの実務的な法令の改正に際して、適切かつ確実な対応を図っています。毎年、国の定める「建設業取引適正化月間」にあわせて、作業所における「建設業法の遵守」・「社会保険加入状況の確認やフォローの確実な実施」について、期間を設けてあらためて確認を行うなど、全社を挙げて適切に取り組むよう周知徹底しています。

反社会勢力への対応

全国の都道府県において「暴力団排除条例」が施行され、暴力団を取り巻く法整備の状況や社会における反社会勢力に対する意識が大きく変化しています。そうした中で当社は従来より、全ての取引会社との間において暴力団排除に関する契約を締結するとともに、取引会社や関係各所と幅広く情報を共有し、全社的に水平展開を図りながら反社会勢力との関係遮断を徹底しています。

安心と信頼

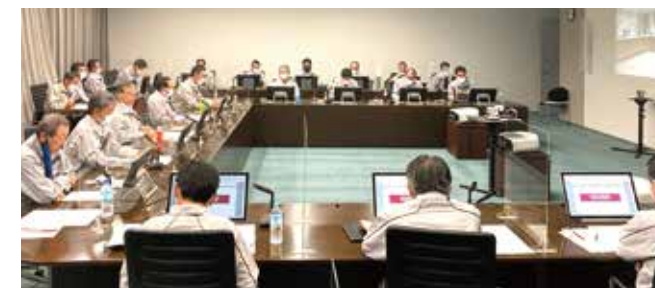
ステークホルダーの皆様からの評価《2022年の主な評価・表彰》

工事表彰	奨励賞	厚生労働大臣	・宮城大郷ソーラーパーク太陽光発電設備設置工事
	感謝状	中日本高速道路(株)	・静岡東スマートインターチェンジ工事
	感謝状	東日本高速道路(株) 関東支社長	・六万部橋跨高速道路橋(ロッキング橋脚)耐震補強工事
	安全管理優良賞	西日本高速道路(株) 四国支社管内安全協議会	・四国横断道(徳島)旭野工事
	感謝状	鉄道建設・運輸施設整備支援機構	・九州新幹線俵坂トンネル東工事
	感謝状	伊達市高子駅北地区土地区画整理組合	・伊達市高子地区土地区画整理事業
その他表彰	工事成績優秀企業認定書	国土交通省関東地方整備局	・関東地方整備局発注工事
	優秀賞	日本原燃(株)	・日本原燃試薬品等貯槽建設工事
	令和3年度環境賞	(公社)土木学会	・温促バイオ®(加温式原位置高速バイオ浄化技術)
	令和3年度技術開発賞	(公社)地盤工学会	・温促バイオ®(加温式原位置高速バイオ浄化技術)
	技術賞	(一社)ダム工学会	・小石原川ダム建設工事
	全建賞	(一社)全日本建設技術協会	・小石原川ダム建設工事
地域貢献	優良技術者表彰	東京土木施工管理技士会	・綾瀬川護岸耐震補強工事(その255) 大久保周一郎、遊佐博志
	優良技術者表彰	東京土木施工管理技士会	・新東名高速道路葛葉川橋(下部工)工事 中山岳彦
	感謝状	いわき市久之浜町末続地区	・常磐自動車道大久北工事
	感謝状	北小松自治会	・国道161号北小松トンネル
	感謝状	大阪市立瓜破小学校	・理科特別授業

危機管理

BCPに基づく災害等緊急時のリスク管理

竹中グループは、首都直下地震や南海トラフ地震など自然災害を想定した事業継続計画(BCP)を策定。各本支店に設置する災害対策本部を中核に従業員・家族の安否確認、作業所や自社施設に加え、当社施工施設・公共施設の被災状況確認及び復旧対応等を早く全社的に行う体制を整えています。2022年11月には、竹中グループで巨大地震を想定した「合同震災訓練」を実施。従業員の行動基準の周知徹底をはじめ事業所やグループ会社間の連携、初動対応体制について確認するとともに、重点実施事項として、沿岸地区やトンネル等、当社の作業所毎の特性を考慮した訓練を行いました。今後も厳しい条件を想定した訓練を継続的に実施していくことでBCPをスパイラルアップし、大規模災害時の具体的な行動基準を周知・徹底していきます。



2022竹中グループ合同震災訓練

将来に亘って健全な事業活動を継続するため、積極的にステークホルダーとの対話を行っています。
そこで議論された意見・課題等は全社で共有し、様々な事業分野へフィードバックしています。

未来を担う学生への支援と交流

当社は「永続的な発展を継続するためには従業員の確保・育成が肝要」と考え、建設業の未来を担う学生たちへの支援と交流に力を注いでいます。

❖ インターンシップ(就業体験)

学生にとって将来の仕事を肌で感じるインターンシップは重要ですが、本年はCOVID-19感染防止に配慮して参加人数を抑えるとともに、学生へのフォローはWEBを活用する等の対策を講じて実施しました。

今後も、学生たちとの交流を通じて意見や想いなどを共有し、将来を担う技術者のキャリア形成や人材育成力の向上に役立てていきます。

❖ 作業所・研究所見学会

学生の建設業への理解やキャリア形成に資する場として、また、企業が果たすべき社会的責任の一環として、作業所や研究所の見学会を継続して行っています。

小中学生の「現場見学会」に協力

日本建設業連合会が主催する現場見学会「けんせつ探検隊」に協力・参加。小中学生の男女6名と保護者6名が造成現場を訪れ、「マシンガイダンスバックホウ」の操縦席に乗ったり最先端の「AR技術」に触れて土木の仕事を体験しました。

また、小学6年生を対象とした現場見学会にも協力。シールドトンネルの工事現場を見学した生徒たちは、大規模な建設業のスケールに驚いた様子でした。

協力会社とのパートナーシップ 絆を深める「竹栄会活動」

「竹栄会」は、全国184の協力会社で組織され、技術力の強化と生産性の向上、並びに労働災害防止活動を積極的に推進し、会員相互の資質向上と体質の強化を図って共存共栄の実をあげ、会員各社の発展に寄与することを目的としています。「生産性向上事業」をはじめ「労働災害防止事業」や「労災互助事業」など活動内容は多岐にわたり、当社は良きパートナーとして多方面における協力・支援体制をとっています。

全国7地区で安全総大会を開催

毎年7月1日～7日までの全国安全週間に先立ち、全国7地区の竹中土木安全衛生管理委員会と竹栄会とが共催して「安全総大会」を開催。安全衛生に秀でた作業所・協力会社及び技能労働者を表彰して安全意識の向上を図るとともに、相互の発展に寄与するパートナーシップを強化しています。



インターンシップ(シールド作業所)



インターンシップ(高速道路IC作業所)



バックホウの操縦席を体験



シールドトンネル工事の現場見学



竹栄会活動・事業主研修会(大阪)



安全衛生に秀でた協力会社及び技能労働者を表彰(東京)

竹中グループの「道路舗装スペシャリスト」として豊富な経験と実績をもつ竹中道路は、生活に欠かせない道路インフラの整備や維持管理、新技術の開発などお客様の信頼を得つづけています。

「時代の要請に」応えつづける

竹中道路は、竹中グループの道路分野を担い、交通インフラの要とも言える「道路」を基軸に社会基盤の整備を通じて安全で快適な暮らしと社会発展の一翼を担っています。

頻発する自然災害の脅威やインフラ老朽化などが喫緊の課題とされる昨今、時代が求める技術開発と最良の品質を提供することで社会基盤整備に携わる社会的責任を全うし、お客さまのニーズや社会の変化に適確に応えつづけます。

また、働き方改革やDX推進、脱炭素などへの取り組みを加速させながら新しい価値の創成に努め、快適で安全な道づくりと人にやさしいまちづくりを通じて持続可能な社会の実現に貢献し、「未来へとつながる道」を描きつづけます。

「保有技術」の展開

❖ IH式舗装撤去

竹中道路が開発した「IH式舗装撤去」は、鋼床版とアスファルト舗装の接着面を加熱して表層・基層を一体で剥離する画期的な技術。施工時の騒音を抑制できることで夜間作業が可能となり、撤去材の飛散や粉塵発生も少ないため「周辺環境に優しい工法」として実績を伸ばしています。

❖ 遮熱性舗装『爽やかコート』

路面温度の上昇を低減させる遮熱性舗装は、東京オリンピック開催時のアスリート・観客への遮熱対策に有効とされ、競技会場周辺の歩道に適用されました。

❖ ハニカムグリーン

公園・遊歩道や駐車場にも適用される「ハニカムグリーン」は、美観に優れ利用者にも優しい芝生舗装として、都市部の緑化面積の確保やヒートアイランド対策にも期待されています。

お客様満足の向上

2022年は、国土交通省 関東地方整備局の局長表彰をはじめ、事務所長表彰・難工事表彰など数多くの賞をいただき、多くのお客様から評価を得ています。また、東北・中部地方整備局からは「工事成績優秀企業」に認定されました。

TOPICS

当社施工の「東側ベデストリアンデッキ」工事竣工をもって、約17年を経た鹿児島中央駅東口側の19・20番街区市街地再開発も全事業が終了。2022年9月12日の開通式より利用が始まり、交通環境・利便性の向上に繋がっています。



IH式舗装撤去(阪神高速道路)



遮熱性舗装(江東区)



ハニカムグリーン(太田PA)



「ベデストリアンデッキ」懸架の様子



人と地球の架け橋に

 竹中土木

<https://www.takenaka-doboku.co.jp/>



環境への配慮のため、FSC®認証紙とnon-VOCインキを使用し、印刷工程では有害廃液を出さない水なし印刷を採用しています。